N Box +
N Box + Custom

オーナーズマニュアル

ビジュアル目次

オートエアコン* P. 122
マニュアルエアコン* P. 125
非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
セレクトレバー P. 141, 143
メーター P. 52
警告灯 P. 44
表示灯 P. 49
AUTO
A/C
パワースライドドア
スイッチ* P. 74
ヘッドライトレベリング
ダイヤル* P. 89
VSA OFFスイッチ
P. 155
アクセサリーソケット P. 118
リヤデフロスタースイッチ / ヒーテッドドアミラー* スイッチ P. 92
デフロスタースイッチ P. 123, 129

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

サイドアンダーミラー P. 97
サイドビューサポートミラー P. 96
室内助手席側ヒューズボックス* P. 234
SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 25
SRS エアバッグシステム（運転席用） P. 25
室内運転席側ヒューズボックス P. 232
ドアミラー調節スイッチ P. 94
パワーウィンドースイッチ P. 81
フューエルリッドオープナー P. 163
ボンネット解除ノブ P. 176
パーキングブレーキ P. 156
センターコンソールボックス P. 114
グローブボックス P. 114
発炎筒 P. 209

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

エンジンルーム内のメンテナンス P. 174
ワイパー P. 90, 192
ヘッドライト P. 87, 178
アクセサリーランプ* P. 185
ドアミラー/ 広角ドアミラー P. 94, 95
ドアミラーウィンカー* P. 186
ドアの施錠 / 解錠 P. 57
アンテナ P. 131
ハイマウントストップランプ P. 189
スライドドアの開閉 P. 72
リヤワイパー P. 91, 193
テールゲートの開閉 P. 71
制動灯 / 尾灯 P. 187
ウィンカー P. 86, 187
後退灯 P. 187
給油のしかた P. 163
タイヤ P. 195, 210
フォグライト* P. 88 , 184

安全なドライブ P. 18

●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 19

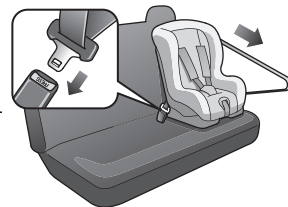
●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

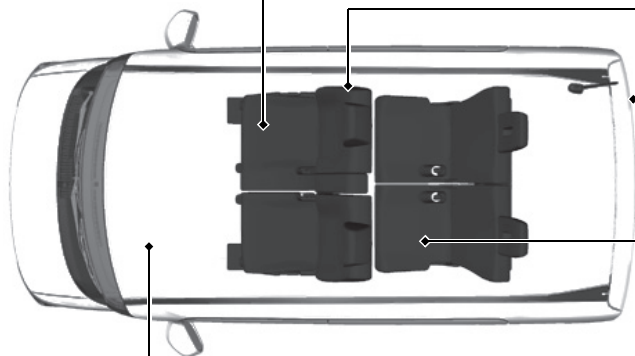
シートベルト P. 20

排気ガスについて P. 42

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全 P. 30

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート✤に取り付けてください。

エアバッグ P. 25

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

計器の見かた P. 43

警告灯 P. 44 表示灯 P. 49 メーター P. 52

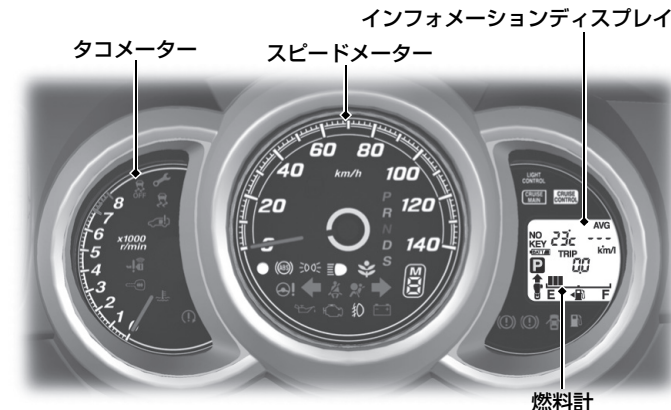
警告灯 / 表示灯

- エンジンオイル メンテナンス表示灯*
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- パワースライドドア警告灯*
- Honda スマートキーシステム警告灯*
- イモビライザーシステム表示灯*
- 低水温表示灯（ブルー）
- 高水温警告灯（レッド）
- アイドリングストップシステム警告灯*（オレンジ）
- アイドリングストップ表示灯*（グリーン）
- スターターシステム警告灯*
- セキュリティアラームシステム作動表示灯*
- セレクトポジション P 移動警告灯*
- Honda スマートキー電池消耗警告灯*

タコメーター

スピードメーター

インフォメーションディスプレイ

燃料計

アンビエントメーター

●運転操作の状態に応じて、アンビエントメーターの色が変化します。

N BOX +

スピードメーターの外周が点灯します。

緑色：省燃費状態

白色：急加減速状態

N BOX + Custom

スピードメーターの中央が点灯します。

緑色：省燃費状態

青色：急加減速状態

ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯
- フォグライト点灯表示灯*

警告灯 / 表示灯

- セレクトポジション表示灯（トランスミッション警告灯）
- シフトインジケーター／M（7 速マニュアルシフトモード）表示灯*

警告灯 / 表示灯

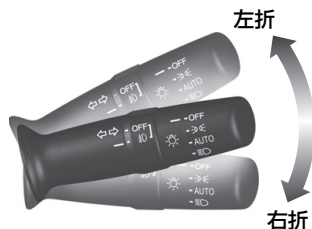
- ABS 警告灯
- ECON 表示灯
- EPS 警告灯
- 方向指示器表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- エアバッグシステム警告灯
- 油圧警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 充電警告灯
- オートライトコントロール警告灯*
- クルーズメイン表示灯*
- クルーズコントロール表示灯*
- ブレーキ警告灯（レッド）
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）
- ドア / テールゲート開閉警告灯
- 燃料残量警告灯
- ブレーキ踏み込み不足表示灯*

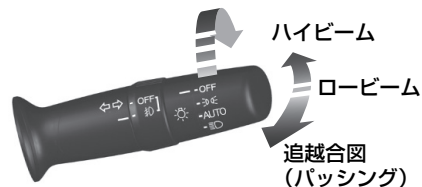
各部の操作 P.56

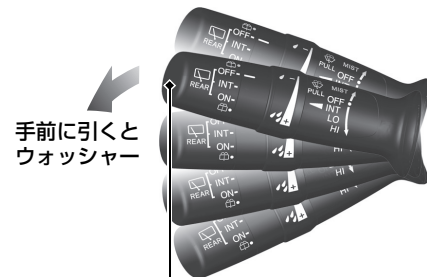
ENGINE START/STOPスイッチ✤ P.83

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。

ウィンカー P.86

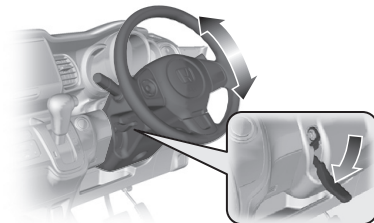
方向指示器（ウィンカースイッチ）

ライト P.87

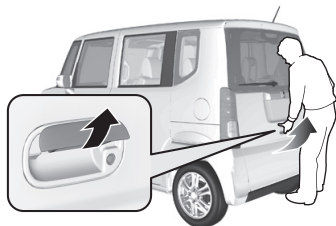
ライトスイッチ

ワイパー P.90

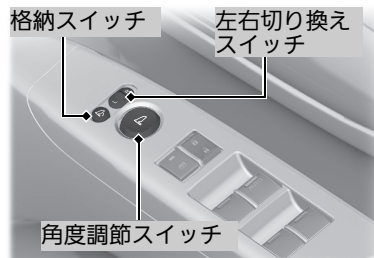
ワイパー/ ウォッシャースイッチ

- OFF 停止
- INT 間欠（雨量が少ないとき）
- LO 低速（普通の雨量のとき）
- HI 高速（雨量が多いとき）

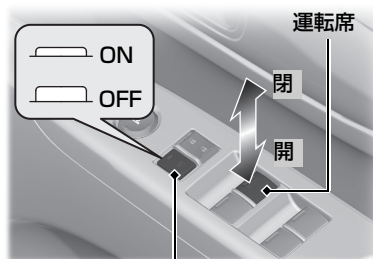
ハンドル位置の調節✤

P.93

●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。

テールゲート P.71

●テールゲートは、テールゲートハンドルを引いて開きます。

ドアミラー P.94

●パワーモード※1 が ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。

パワーウィンドー P.81

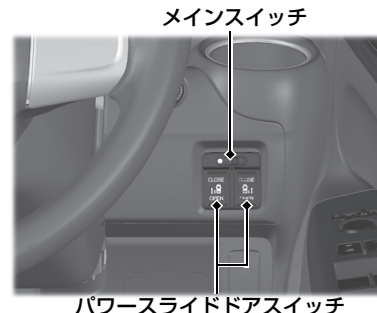
●パワーモード※1 が ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

パワーウィンドーロックボタン
- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

パワースライドドア✤

P.74

●メインスイッチが ON のとき、開閉したい側の または を押すと自動的に開閉します。

メインスイッチ

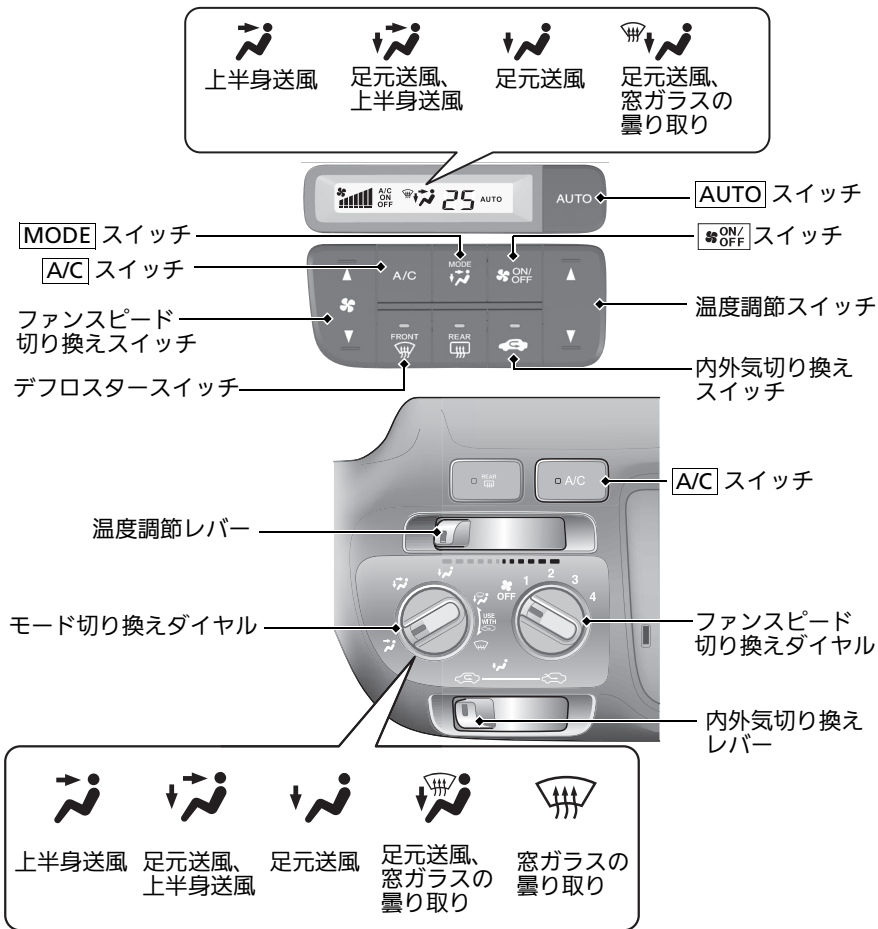
パワースライドドアスイッチ

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

エアコン P. 121

オートエアコン装備車

- AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
- ON/OFF を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、FRONT を押します。

マニュアルエアコン装備車

- ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節します。
- モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選びます。
- 温度調節レバーで吹き出し風の温度を調節します。
- ファンスピード切り換えダイヤルを OFF にすると、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、モード切り換えダイヤルを にします。

運転 P.132

オートマチック車 P.140

●セレクトレバーをPに入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

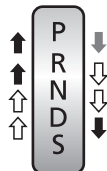
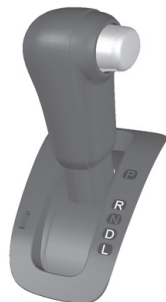
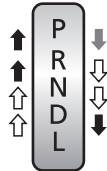
セレクトレバー

セレクトレバーの操作

ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押して操作

ボタンを押さずそのまま操作

7 速マニュアルシフトモード装備車

7 速マニュアルシフトモード非装備車

P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

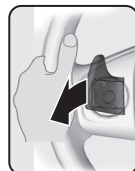
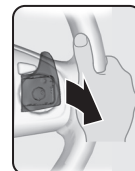
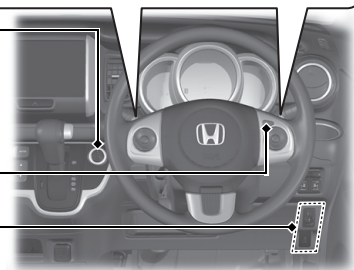
D ドライブ
- 通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモード✤にするとき

S ドライブ(S)✤
- 高回転領域を有効に使用
- 上り坂や下り坂を走行するとき
- 7 速マニュアルシフトモード✤にするとき

L ロー✤
- 強いエンジンブレーキが必要なとき
- 上り坂や下り坂を走行するとき

7速マニュアルシフトモード✤
- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、自在にシフト操作ができます。

セレクトレバーがS✤のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードになります。M(7速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

セレクトレバーがDのとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に7速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

VSA OFF スイッチ P. 155

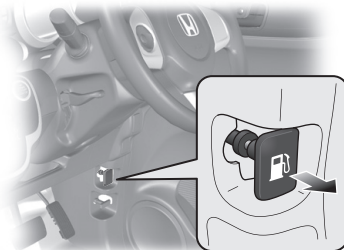
●VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
●エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
●VSA を停止(OFF)状態にするには、[VSA OFF] を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには [VSA OFF] を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

CRUISE スイッチ✤ P. 151

●クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
●クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために CRUISE を押して OFF にしてください。

ガソリンを入れる P. 163

指定燃料： 無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：
2WD 車 35 リットル
4WD 車 30 リットル

❶ フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。

❷ ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。

❸ キャップをホルダーにかける。

メンテナンス P. 170

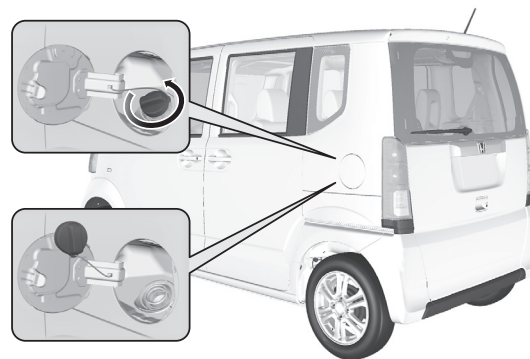
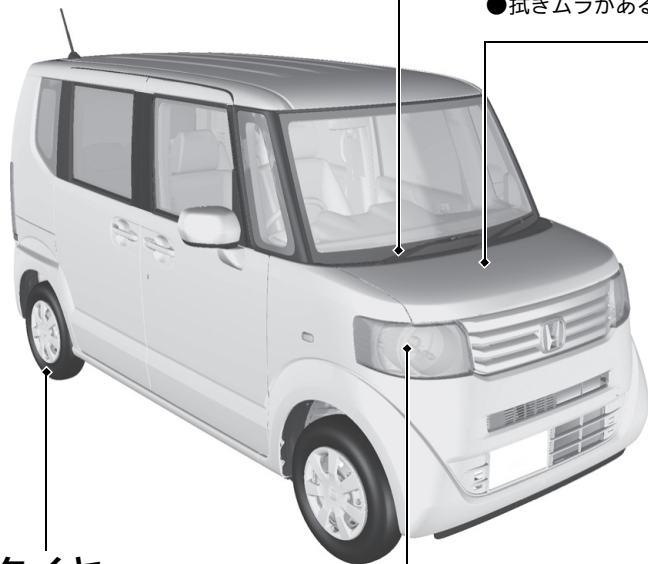
ワイパーブレード P. 192

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

エンジンルーム P. 174, 177, 226

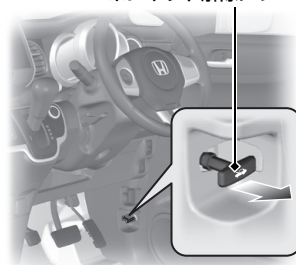
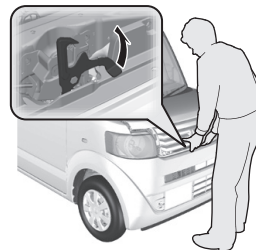
●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

❷ レバーを上げてボンネットを開ける。

タイヤ P. 195

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

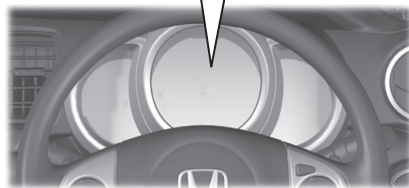
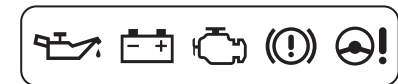
ライト P. 178

●ヘッドライト、フォグライト電球*、テールライト電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。P. 230

万一の場合には P. 208

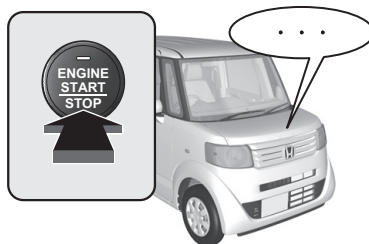
パンクした P. 210

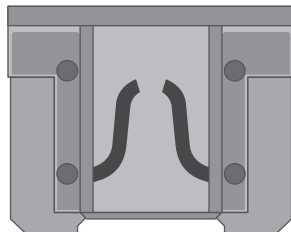
●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。

警告灯が点灯した P. 227

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。

エンジンが始動しない

P. 220

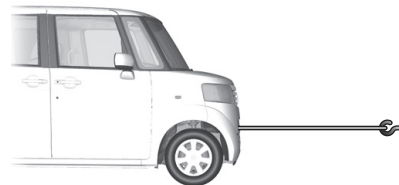
●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。

ヒューズが切れた P. 230

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。

オーバーヒートした P. 226

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。

けん引してもらいたい

P. 237

●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず四輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。

こんなときは

ENGINE START/STOP ※1 のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない

- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP ※1 を押してください。

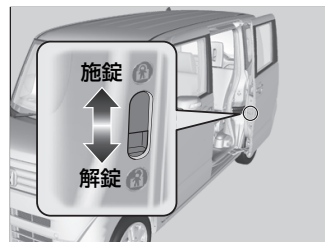
ENGINE START/STOP ※1 のパワーモードが OFF モードにならない

- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？

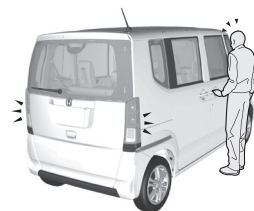
ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

後席ドアが車内から開けられない

- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

Q キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

- キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

- 「ピピピピ」と鳴るときはパワーモード※1 を OFF モード以外にしていませんか？
- 「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ✤中に運転席ドアを開けると「ピーッピーッピーッ･･･」と鳴ります。

Q 走行するとブザーが鳴る

- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ P.18
計器の見かた P.43
各部の操作 P.56
オーディオ P.130
運転 P.132
メンテナンス P.170
万一の場合には P.208
資料 P.240
索引 P.249

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか?
  ▶すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  車内での施錠 / 解錠 P.65
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか?
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  フロントシート P.99
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか?
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  フロントシート P.99
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか?
  ▶運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  シートベルトの着用 P.23
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか?
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  エアバッグ P.25
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか?
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  お子さまの安全 P.30
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしているか?
  ▶さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  シフト操作 P.141, 143

≫安全のための確認事項

ドア / テールゲート開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア / テールゲート開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

ドア / テールゲート開閉警告灯 P.47

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。全ての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

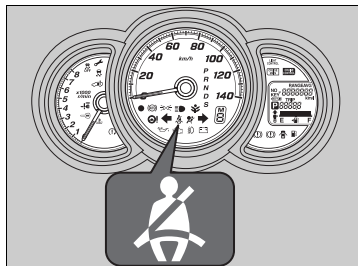
»シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトリマインダー

パワーモード※1 を ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のブザーが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

以下のような場合、助手席側シートベルトリマインダーが正常に作動しないことがあります。

- お子さまや小柄な方を乗せているとき
- 重い荷物などを置いているとき
- クッションを使用したり、正しい姿勢で乗車していないとき

シートベルトプリテンショナー

安全性をより高めるために、フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束効果を高めるための装置です。

» シートベルトプリテンショナー

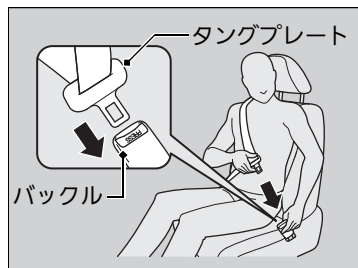
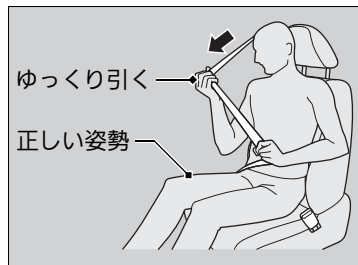
⚠ 注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用

三点式シートベルト

1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。

3. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

次ページに続く

»シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

》妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

》シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモード※1 が ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

»エアバッグの種類

⚠警告

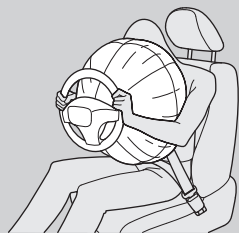
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。
エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

≫SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

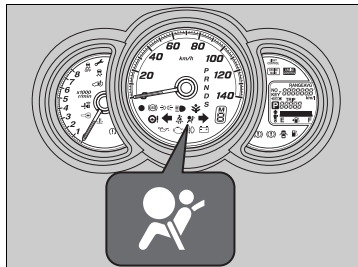
⚠注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯で知らせます。

■エアバッグシステム警告灯

■パワーモード※1をONモードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

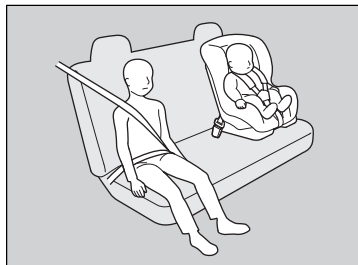
エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートのある車に乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があるため危険です。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができず危険です。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 窓から手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが窓から手や顔、ものなどを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあり危険です。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になり危険です。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告

シート前部のエアバッグで保護されたシートには、後向きの幼児拘束装置を使わないでください。

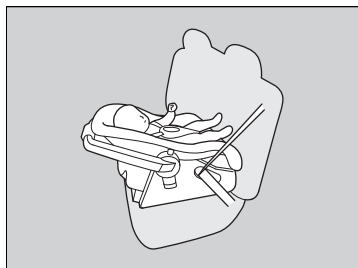
お子さまを助手席に乗せないほうが良い理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

リヤシート装備車

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

次ページに続く

»乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

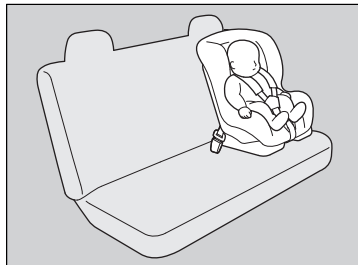
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

リヤシート装備車

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

»幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。
やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシートに付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の３つの条件を満たしている必要があります。

- 一覧表に案内されているチャイルドシートであること
  選択の目安 P.34, 36
- チャイルドシートがお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること

>チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。
汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置 前席 助手席	座席位置 後席 左右席
グループ0 ～10kg	X	U
グループ0+ ～13kg	X	U
グループI 9kg～18kg	UF	U
グループII 15kg～25kg	UF	U
グループIII 22kg～36kg	UF	U

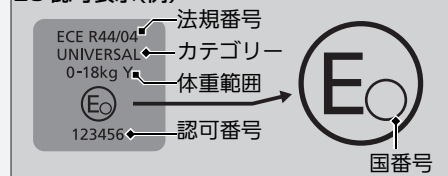
記号の説明

UF ：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
U ：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
X ：チャイルドシートを装備できないことを示す。

≫シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

UとUFのチャイルドシートには、ECE R44認可表示と取扱説明書にUNIVERSAL(汎用)と案内されているものもあります。

汎用型ISOFIXチャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

リヤシート装備車

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシートには、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

次ページに続く

»汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しましては Honda 販売店にご相談ください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置 前席 助手席	座席位置 後席 左右席
キャリコット	F G	ISO/L1 ISO/L2	—	X X
0 ～10kg 以下	E	ISO/R1	—	IL
0+ ～13kg 以下	E D C	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3	—	IL X X
I 9kg～18kg	D C B B1 A	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3	—	X X IUF IUF IUF
II 15kg～25kg	—	—	—	X
III 22kg～36kg	—	—	—	X

記号の説明

IUF：汎用（ユニバーサル）ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

IL　：Honda Baby ISOFIX チャイルドシートまたは Honda ISOFIX Neo チャイルドシートを備えることができることを示す。

X　：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

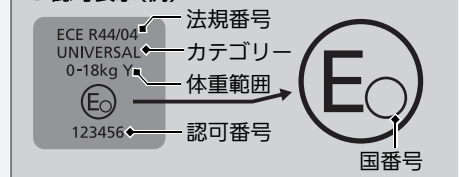
汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

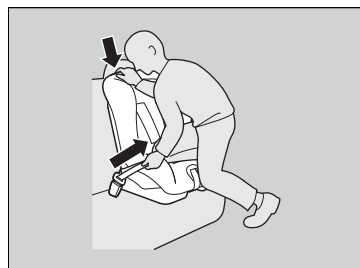
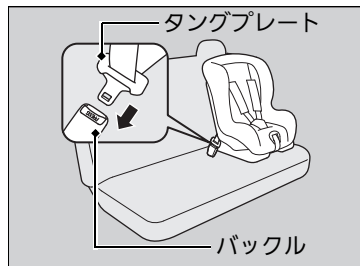
固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

IL は ECE R44 に適合した、Honda 純正 HondaBaby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo を取り付けることができます。ご購入はHonda販売店にご相談ください。

IUFのチャイルドシートには、ECE R44認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX（汎用）と案内があります。

EC 認可表示（例）

リヤシート装備車

シートベルトでの取り付け

1. リヤシートの背もたれが、一番後ろの位置で固定されていることを確認する。
   背もたれの調節 P.101
2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

次ページに続く

»シートベルトでの取り付け

注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

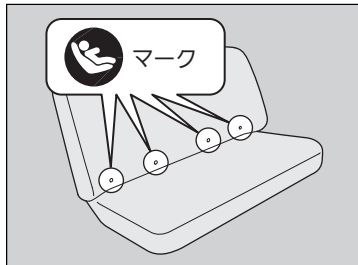
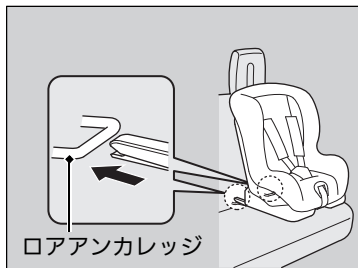
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

リヤシート装備車

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。

1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。
2. リヤシートの背もたれが、一番後ろの位置で固定されていることを確認する。
   背もたれの調節 P.101

3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。
   ▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。
4. ヘッドレストを取り外す。
   ヘッドレスト P.103

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠注意

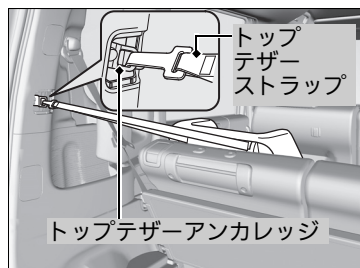
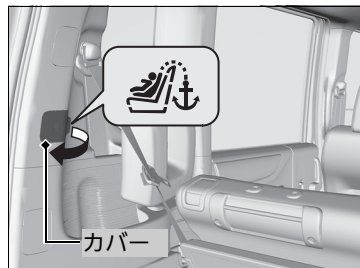
リヤシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

5. トップテザーアンカレッジのカバーを取り外す。

6. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。

▶このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

»汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

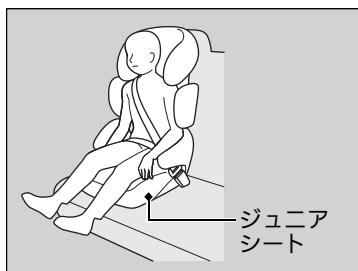
大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシート非装備車の場合はフロントシートに深くすわらせ、リヤシート装備車の場合はリヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。

■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

»大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

»ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけ、足をフロアーにつけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- お子さまの行動を見守る

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

≫一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯(レッド)	• パワーモード ※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) • ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 **ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した** P.228
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモード ※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキスイッチまたは ABS が異常のときに点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	油圧警告灯	• パワーモード ※1 を ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **油圧警告灯が点灯した** P.227
	PGM-FI 警告灯	• パワーモード ※1 を ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯** =高速走行を避けてただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅** =枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。 **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.228

※1 ： エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	充電警告灯	• パワーモード※1をONモードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 **充電警告灯が点灯した** P.227
D	トランスミッション警告灯	• パワーモード※1をONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモード※1をONモードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 **シートベルトリマインダー** P.21
	Honda スマートキーシステム警告灯✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOPスイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 4L になったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモード※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.158
	エアバッグシステム警告灯	• パワーモード※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記の異常を検出すると点灯 　• エアバッグシステムの異常 　• プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	高水温警告灯(レッド)	• パワーモード※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• **走行中に点滅** = ゆっくり走行してください。 • **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 **オーバーヒート** P.226
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• パワーモード※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ヒルスタートアシスト、発進補助ブレーキ機能、ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.154

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
OFF	VSA OFF 警告灯	• パワーモード※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	**VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.154
LIGHT CONTROL	オートライトコントロール警告灯✤	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯	• 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ドア/テールゲート開閉警告灯	• ドア、テールゲートが閉まっているときは、パワーモード※1 を ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ドア、テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	• ドア、テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。
	パワースライドドア警告灯✤	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワースライドドアシステムに異常があるとき点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、メインスイッチを OFF にして、スライドドアの開閉は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	EPS(エレクトリックパワーステアリング)警告灯	• パワーモード※1 を ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • EPS システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **EPS 警告灯が点灯した** P.229
	スターターシステム警告灯✤	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • スターターシステムが異常のときに点灯	• ブレーキを踏んだまま ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
A	アイドリングストップシステム警告灯✤(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • アイドリングストップシステムに異常があるときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
P	セレクトポジション P 移動警告灯✤	• セレクトレバーが P 以外のときに、パワーモードが ON モードからアクセサリーモードになると表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➡ **エンジンの始動** P.135
KEY BATT	Honda スマートキー電池消耗警告灯✤	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に点灯	➡ **電池交換のしかた** P.200

✤:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 **電球の交換** P.182, 186, 187
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯（AUTO✤ のときは車幅灯点灯時に点灯）	• ライトを点灯したままパワーモード※1 を OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
	フォグライト点灯表示灯✤	• フォグライトを点灯させると点灯	—
	イモビライザーシステム表示灯✤	• パワーモードを ON モードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度ONモードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

計器の見かた

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	低水温表示灯（ブルー）	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯✤	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ **セキュリティアラームシステム✤** P.79
	ECON 表示灯	• ECONスイッチを押して、ECONをOFFにすると消灯 • パワーモード※1をONモードにすると点灯	➡ **ECON スイッチ** P.150
P R N D L / P R N D S	セレクトポジション表示灯	• 現在のセレクトレバーのポジションが点灯	➡ **シフト操作** P.141, 143
	シフトインジケーター/ M （7 速マニュアルシフトモード）表示灯✤	• セレクトレバーが S で、7 速マニュアルシフトモードのとき M 表示灯が点灯 • 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	➡ **7 速マニュアルシフトモードとは** P.145
CRUISE MAIN	クルーズメイン表示灯✤	• クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯	➡ **クルーズコントロール✤** P.151

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
CRUISE CONTROL	クルーズコントロール表示灯✤	• クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	➡ **クルーズコントロール✤** P.151
Ⓐ	アイドリングストップ表示灯✤（グリーン）	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➡ **アイドリングストップシステム✤** P.147
BRAKE	ブレーキ踏み込み不足表示灯✤	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点滅	• ブレーキペダルを踏み込んでください。
	エンジンオイルメンテナンス表示灯✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンオイルの交換時期が近づくと点滅 • エンジンオイルの交換時期が過ぎると点灯	• **約10秒間点滅した後に消灯＝**表示灯をリセットしてから4,500km以上走行したことを示します。 • **消灯しない＝**表示灯をリセットしてから5,000km以上走行したことを示します。すみやかにエンジンオイルを交換してください。エンジンオイルを交換した後は、表示灯をリセットしてください。 ➡ **表示灯のリセット** P.167 • この表示灯は、走行距離を積算してエンジンオイルの交換時期をお知らせします。前回エンジンオイル交換後、リセットしてからの走行距離が5,000km未満であっても、6ヶ月が経過した場合はエンジンオイルを交換してください。 ➡ **ターボ車✤について** P.166

計器の見かた

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーター、タコメーターなどの種類があります。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

»タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

セレクトレバーが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

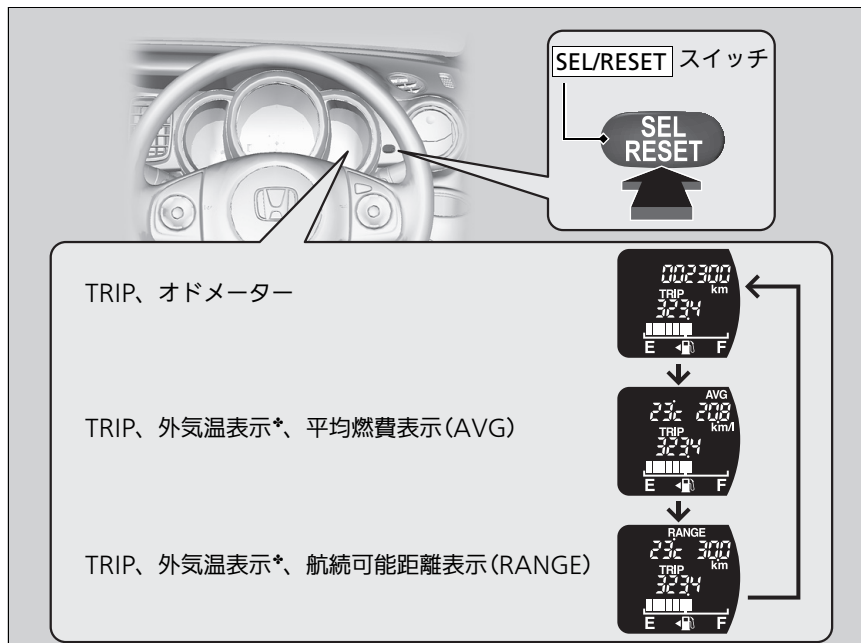
インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示✤ などが表示されます。

■表示の切り換えかた

SEL/RESET を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■燃料計

燃料タンクに残っている燃料の量を表示します。
パワーモード※1がONモードのとき表示されます。

■オドメーター

走行距離の累計をkmで表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離をkmで表示します。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、SEL/RESETを押し続けてください。トリップメーターが0.0にリセットされます。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOPスイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、インフォメーションディスプレイに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

≫トリップメーター

トリップメーターは走行距離が9999.9kmを超えると、0.0kmに戻ります。

計器の見かた

■外気温表示✤

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。
補正するには、 SEL/RESET を押し続け、設定したい補正値が表示されたら SEL/RESET を離します。

■平均燃費表示(AVG)

トリップメーターと連動し、平均燃費を一定時間ごとに更新してkm/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■航続可能距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

≫外気温表示✤

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ30km/h以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードを ON にしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温表示が数秒点滅します。

≫平均燃費表示(AVG)

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

≫航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

✤:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

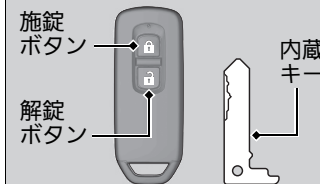
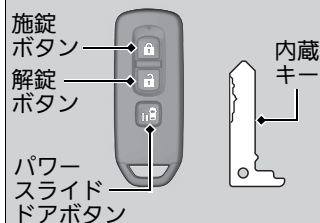
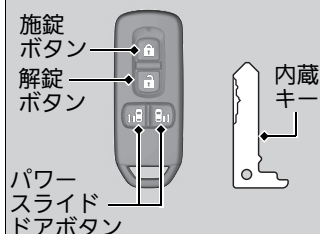
各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。キーの組み合わせは、車両のタイプにより異なります。

Honda スマートキーシステム装備車

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。
キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

次ページに続く

≫キーの種類と機能

イモビライザーシステム装備車

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

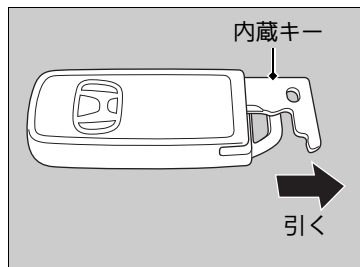
➡ **イモビライザーシステム✤** P.79

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

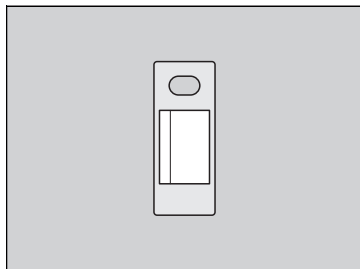
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■Honda スマートキー✤

Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

≫Honda スマートキー✤

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき✤
P.221

落下した時は内蔵キーが抜けていないか確認してください。

≫キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

各部の操作

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

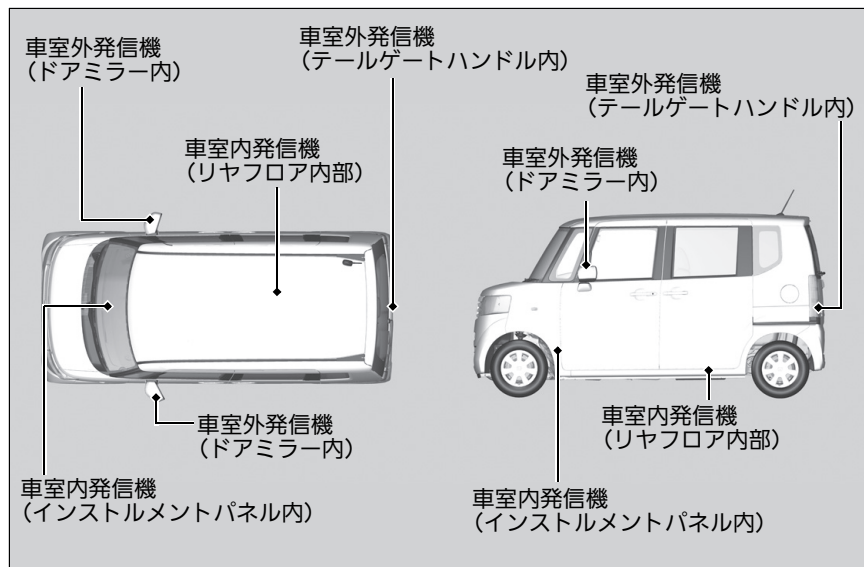
Honda スマートキーの微弱電波✤

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンをかけるとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

»Honda スマートキーの微弱電波✤

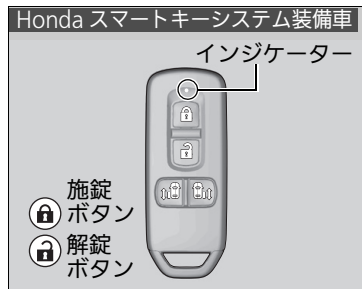
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

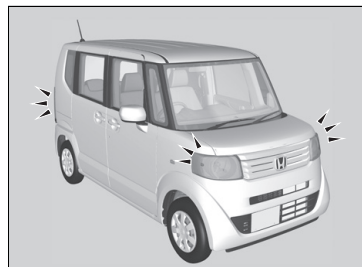
■キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

■施錠

施錠ボタンを押します。

▶非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

≫車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーおよび Honda スマートキーによる施錠 / 解錠はできません。

エンジンスイッチ装備車

エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
キーレスエントリーで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

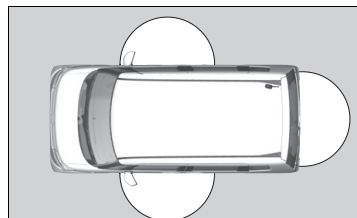
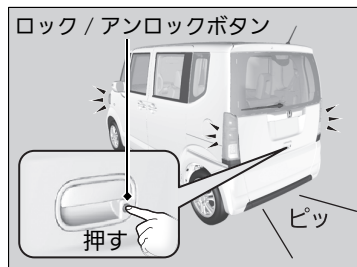
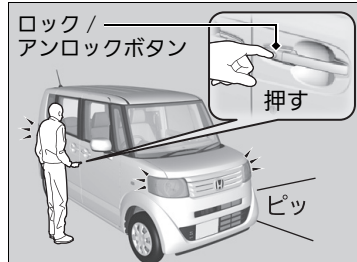
解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。
約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。
室内灯 P.111

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
電池交換のしかた P.200

各部の操作

次ページに続く

■ Honda スマートキー✤ での施錠 / 解錠

Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。
ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 80cm 以内です。

■施錠するには

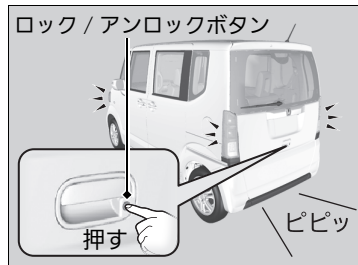
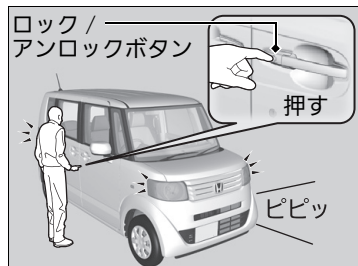
運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートハンドルのロック / アンロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

»Honda スマートキー✤ での施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
Honda スマートキーで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロック / アンロックボタンで施錠 / 解錠操作ができます。
- ロック / アンロックボタンを押した直後にドアハンドルまたはテールゲートハンドルを引くと、ドアが開かないことがあります。ボタンをもう一度押し直して、解錠されていることを確認してからドアハンドルまたはテールゲートハンドルを引いてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートハンドルより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■解錠するには

運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートハンドルのロック / アンロックボタンを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

≫Honda スマートキー✤での施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

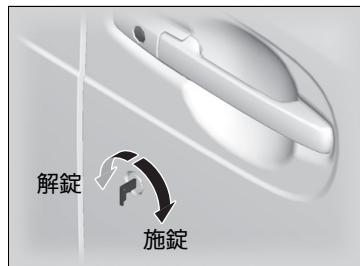
施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーの設定は、変更することができます。
カスタマイズ機能の詳細は Honda 販売店にご相談ください。

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバックブザー音量	大※、小
アンサーバックブザー作動	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

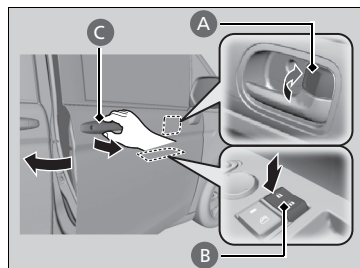
各部の操作

次ページに続く

キーを差し込んでの施錠 / 解錠

キーを確実に差し込んで回します。

Honda スマートキーシステム装備車

内蔵キーを取り出して操作してください。

キーを使わないでの施錠

■運転席のドアの施錠

ノブ Ⓐ を押し込むかマスタードアロックスイッチ Ⓑ を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル Ⓒ を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

キーがエンジンスイッチに差し込まれていると施錠できません。

Hondaスマートキーシステム装備車は、Hondaスマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

»キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

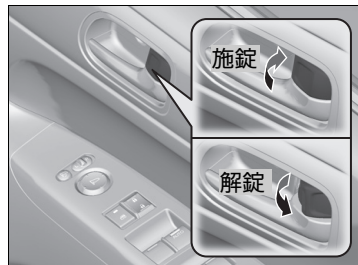
»キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

各部の操作

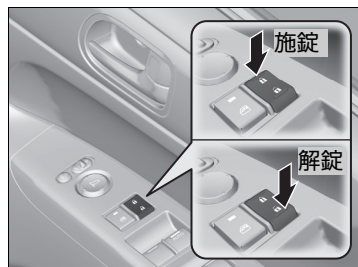
車内での施錠 / 解錠

ノブでの施錠 / 解錠

施錠するには

ノブを押し込みます。

解錠するには

ノブを引き出します。

マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

ノブでの施錠 / 解錠

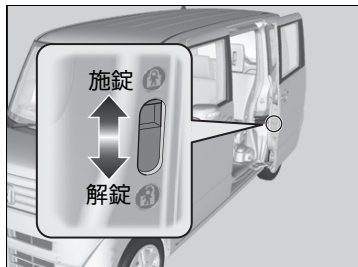
運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシート✤に乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット

後席ドアについているレバーを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

≫チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

パワースライドドア装備車

運転席スイッチ、Honda スマートキーでも開閉できます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック（車速連動）

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、テールゲートが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック（セレクトレバー連動）

ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを P に入れると、すべてのドア、テールゲートが自動的に解錠される機能です。

≫衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

≫オートドアロック / オートドアアンロック

マスタードアロックスイッチを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➡ **オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ** P.68

オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ

オートドアロックとオートドアアンロックの設定を、カスタマイズ(設定変更)することができます。カスタマイズ操作は、マスタードアロックスイッチで行います。

■オートドアロック / オートドアアンロックの設定内容

オートドアロックとオートドアアンロックの設定内容は、下表のとおりです。

■オートドアロック

設定	車速連動(工場出荷時設定)	セレクトレバー連動	オートドアロックOFF(無し)
設定内容	車速が約15km/h以上になると、自動的に施錠する設定です。	セレクトレバーを P 以外にすると、自動的に施錠する設定です。	自動的に施錠しない設定です。

■オートドアアンロック

設定	セレクトレバー連動(工場出荷時設定)	パワーモード※1 連動	オートドアアンロックOFF(無し)
設定内容	ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを P にすると、自動的に解錠する設定です。	パワーモード※1 を ON モードからアクセサリーモードまたはOFFモードにすると、自動的に解錠する設定です。	自動的に解錠しない設定です。

※1 ：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

各部の操作

■オートドアロックのカスタマイズ操作

操作手順	車速連動（工場出荷時設定）	セレクトレバー連動	オートドアロック OFF（無し）
1. パーキングブレーキを	かける	かける	かける
2. 運転席ドアを	閉める	閉める	開ける
3. パワーモード※1 を	ON モードにする	ON モードにする	ON モードにする
4. セレクトレバーを	P 以外にする	P にする	P にする
5. マスタードアロックスイッチの	施錠側を約 5 秒以上押し続け、ロック作動音がしたら手を離す		
6. パワーモード※1 を	20 秒以内にパワーモード※1 を OFF モードにする ▶設定が終了し、オートドアロックが設定した内容となります		

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

オートドアアンロックのカスタマイズ操作

操作手順	セレクトレバー連動（工場出荷時設定）	パワーモード※1 連動	オートドアアンロック OFF（無し）
1. パーキングブレーキを	かける	かける	かける
2. 運転席ドアを	閉める	閉める	開ける
3. パワーモード※1 を	ON モードにする	ON モードにする	ON モードにする
4. セレクトレバーを	P にする	P 以外にする	P にする
5. マスタードアロックスイッチの	解錠側を約 5 秒以上押し続け、ロック作動音がしたら手を離す		
6. パワーモード※1 を	20 秒以内にパワーモード※1 を OFF モードにする ▶設定が終了し、オートドアアンロックが設定した内容となります		

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

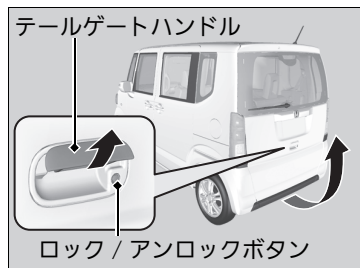
■テールゲートを閉めるとき

- キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

≫テールゲート開閉時の注意

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける

解錠されているときに、ハンドルを引き上げます。

≫テールゲートを開ける

Honda スマートキーシステム装備車

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してロック / アンロックボタンを押すと、解錠されますのでテールゲートハンドルを引き上げて開けることができます。

➡ **Honda スマートキー* での施錠 / 解錠** P.62

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- キー、キーレスエントリーまたは Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする
  ▶運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

⚠注意

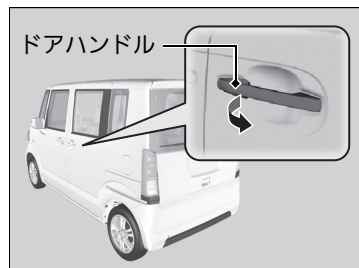
スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。
ドアが不意に閉まるおそれがあります。

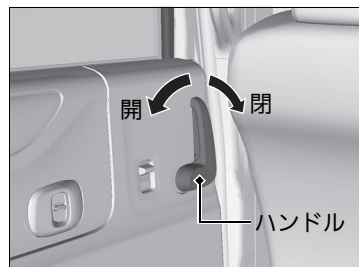
ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドプルーフをセットしてください。
➡ チャイルドプルーフ P.66

スライドドアの開閉操作

■車外から開閉するとき

開けるとき： ドアハンドルを引き後方へスライドさせる。

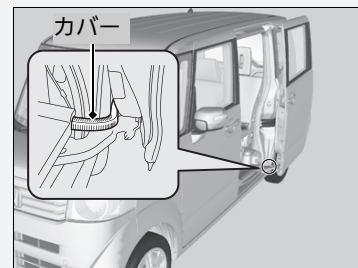
閉めるとき： ドアハンドルを引き前方へスライドさせる。

■車内から開閉するとき

開けるとき： ハンドルを持ち後方へ引いてスライドさせる。

閉めるとき： ハンドルを持ち前方へ押してスライドさせる。

»スライドドアの開閉操作

アドバイス

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。
踏まないように注意してください。

スライドドアは全開にするとストッパーで固定されます。

助手席側のスライドドアはフューエルリッドが開いているとストッパーが作動して途中で止まります。フューエルリッドを閉めてスライドドアを少し戻してから開けると全開できます。

パワースライドドアの開閉操作✤

Honda スマートキーや運転席にあるパワースライドドアスイッチを使って、パワースライドドアを自動で開閉することができます。また、ドアハンドルを引いて自動で開閉することもできます。

■自動で開閉するときの条件

次の条件が揃ったときに自動で開閉することができます。

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- フューエルリッドが閉じているとき（助手席側のみ）

Honda スマートキーやパワースライドドアスイッチで開閉操作する場合、以下の条件が追加されます。

■Honda スマートキーでの開閉条件

- パワーモードが OFF モードのとき

■パワースライドドアスイッチでの開閉条件

- パワーモードが ON モードのときは、セレクトレバーが P のとき
  ▶ P 以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているときは操作できます。

》パワースライドドアの開閉操作✤

⚠警告

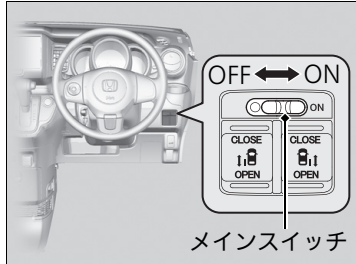
パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。
ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

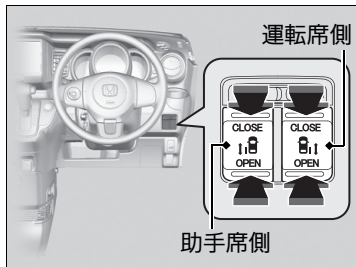
⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。
ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。
パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■自動開閉と手動開閉の切り換え

自動開閉：メインスイッチを ON にする
手動開閉：メインスイッチを OFF にする
➡ **スライドドアの開閉操作** P.73

■パワースライドドアスイッチで開閉する

OPEN 側を押すと開き、CLOSE 側を押すと閉まります。
開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアスイッチを押すと、「ピーピーピー」とブザーが鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。
再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

≫パワースライドドアの開閉操作✤

メインスイッチを OFF にしているときも、イージードアクローザーは作動します。
➡ **イージードアクローザー✤** P.78

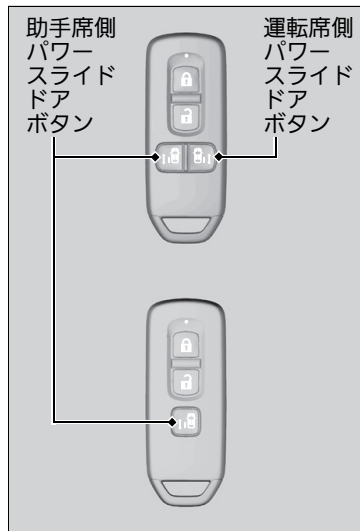
坂道などでドアを開閉中にメインスイッチをOFF にして止めないでください。
落下防止機構が作動し、ブザーが鳴り続けます。
坂道の場合は、スライドドアが断続的に傾斜方向へ移動します。

パワースライドドアが開いている状態で、バッテリーやヒューズを交換した場合は、自動で閉まらなくなります。
その場合は、手動でパワースライドドアを閉めると機能が復帰します。

パワーモードがONモードでパワースライドドアを作動中のときに、セレクトレバーを P 以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、ブザーが鳴ります。
開けているときは途中で止まり、閉めているときはそのまま閉まります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■キーレスエントリーで開閉する

パワースライドドアボタンを約１秒以上押すと、自動で開閉することができます。

開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアボタンを押すと、「ピーピーピー」とブザーが鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。再度ボタンを押すと反対側に動きます。

»パワースライドドアの開閉操作✤

⚠警告

ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。

はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

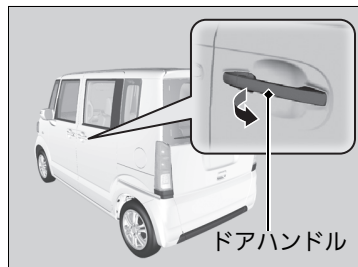
パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。

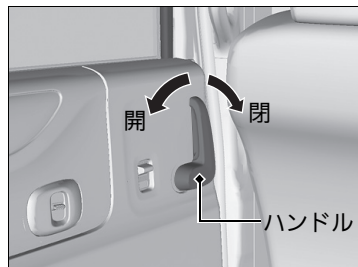
パワースライドドアを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワースライドドアを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりパワースライドドアが反対側に動きます。このとき、ブザーが「ピーピーピー」と鳴ります。

各部の操作

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ドアハンドルで開閉する

■外側のハンドル

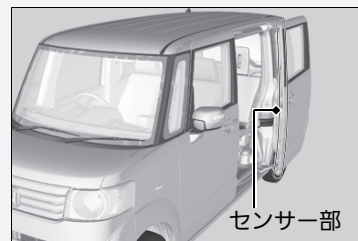
ハンドルを引くと自動で開閉することができます。

■内側のハンドル

ハンドルを後ろ側に引くと自動で開き、前側に押すと自動で閉じます。

開閉中にハンドルを操作すると「ピーピーピー」とブザーが鳴り、途中で止まります。再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

≫パワースライドドアの開閉操作✤

アドバイス

パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。
センサーに触れるとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

パワーモードがONモードのときに、セレクトレバーが P 以外の位置で下記の操作を行うと、内側または外側のハンドルでパワースライドドアを開けようとしても、ブザーが鳴り自動で開きません。

- ブレーキペダルから足を離す
- パーキングブレーキを解除する

フューエルリッドを閉めたことを確認してから、ドアの開閉操作を行ってください。
フューエルリッドが開いた状態で、助手席側パワースライドドアの操作を行うとブザーが鳴り作動しません。

坂道でエンジンを停止した状態で、パワースライドドアを途中停止させたままにすると、約 30 分後、落下防止機構が作動します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

イージードアクローザー✤

スライドドアを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

≫イージードアクローザー✤

⚠注意

半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意する。

イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと、作動が止まり半ドア状態のままになります。また、スライドドアのハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。

パワースライドドア装備車はメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

イモビライザーシステム✤

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。ENGINE START/STOPを押すときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム✤

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーまたは内蔵キーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

≫イモビライザーシステム✤

システムを改造したりしないでください。
エンジンシステムが故障するおそれがあります。

≫セキュリティアラームシステム✤

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、最大５分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、１回の作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■セットするには
セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。
- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーまたは内蔵キーで車外からすべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると
メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには
Honda スマートキーまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

»セキュリティアラームシステム✤

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。
警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

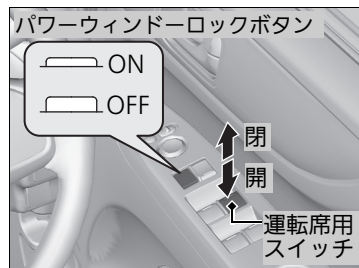
セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。
そのときは、Honda スマートキーまたは内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

パワーウィンドーの開閉

パワーモード※1 を ON モードにしたときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉

■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

≫パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

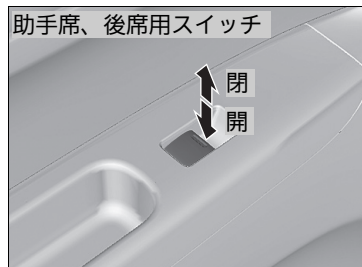
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉

運転席用スイッチ

助手席、後席用スイッチ

閉
開

開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

≫パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

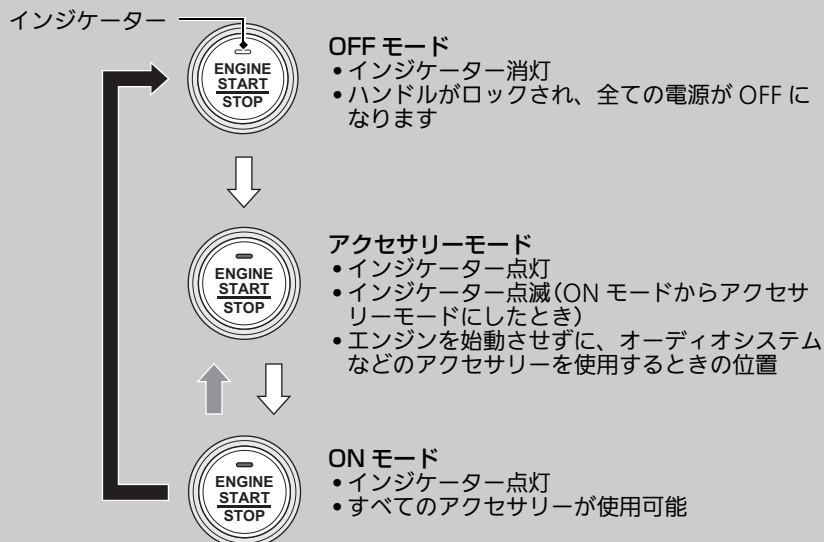
ENGINE START/STOP スイッチ✤

パワーモードの切り換えかた

インジケーター

OFF モード
- インジケーター消灯
- ハンドルがロックされ、全ての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- インジケーター点灯
- インジケーター点滅（ON モードからアクセサリーモードにしたとき）
- エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- インジケーター点灯
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

⇨ スイッチを押す

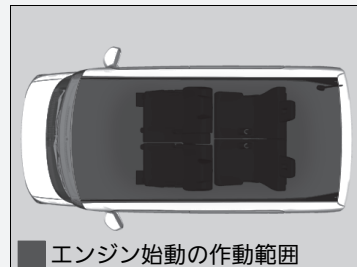
➡（灰）セレクトレバーが P 以外のときに、スイッチを押す

➡（黒）セレクトレバーが P のときに、スイッチを押す

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫ENGINE START/STOP スイッチ✤

Honda スマートキーが車内にある場合エンジンを始動できます。エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。

■ エンジン始動の作動範囲

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

ON モード：
エンジンが始動しているときは、インジケーターが消灯します。

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。
ハンドルロックが解除されます。

■パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに30分～60分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーおよびHonda スマートキーによる施錠 / 解錠ができなくなります。
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

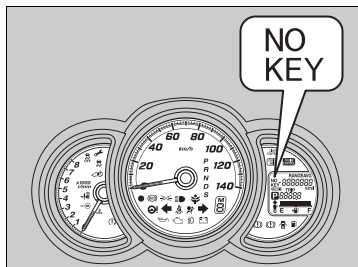
- パワーモードがアクセサリーモードのとき

»ENGINE START/STOP スイッチ✤

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき✤ P.221

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ Honda スマートキー持ち去り警告

警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。
警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

≫Honda スマートキー持ち去り警告

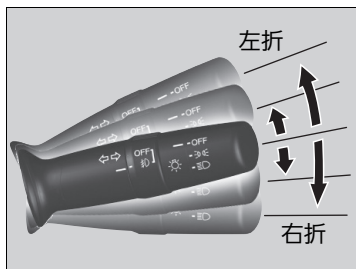
エンジン始動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Hondaスマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Hondaスマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によりHondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。
故障ではありませんので、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

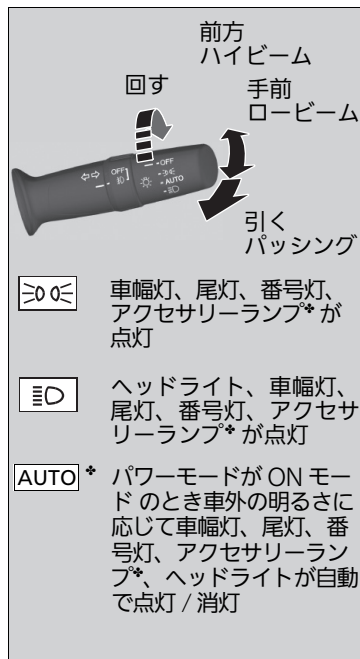
方向指示器（ウィンカースイッチ）

パワーモード※1 が ON モードのときに使用できます。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

ライトスイッチ

車幅灯、尾灯、番号灯、アクセサリーランプ✤が点灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯、アクセサリーランプ✤が点灯

AUTO✤ パワーモードが ON モード のとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、アクセサリーランプ✤、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモード※1の位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫ライトスイッチ

ライトを点灯したまま OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

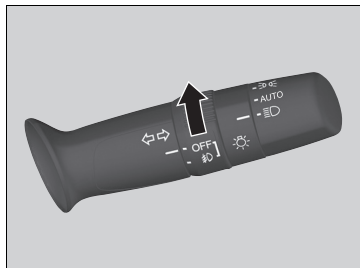
ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.49

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

ディスチャージヘッドライト装備車

ディスチャージヘッドライトの電球は、点灯、消灯を繰り返すと電球の寿命が短くなる特性があります。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。

フォグライトスイッチ✤

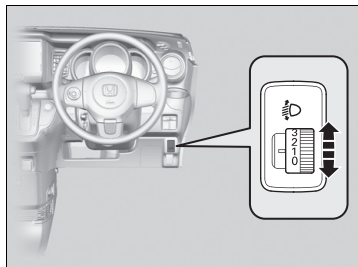
ライトスイッチが OFF 以外のとき(ライトスイッチを AUTO にしているときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

≫フォグライトスイッチ✤

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➔ **表示灯** P.49

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヘッドライトレベリングダイヤル✤

パワーモード※1 が ON モードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
4 名乗車時 運転席と助手席と車いす(3 名)乗車時※	1
4 名乗車でカーゴスペース満載時 運転席と助手席と車いす(3 名)乗車でカーゴスペース満載時※	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

※：車いす仕様車

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»ヘッドライトレベリングダイヤル✤

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

ディスチャージヘッドライト装備車

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ワイパー/ ウォッシャー

パワーモード※1 が ON モードのときに使用できます。

■フロントワイパー/ ウォッシャー

Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）

Ⓑ OFF：停止

Ⓒ INT：間欠（雨量が少ないとき）

Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）

Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）

Ⓕ 間欠時間の調節✤

Ⓖ ウォッシャー

■MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

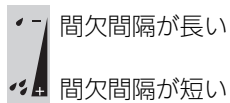
■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

パワーモード※1 が ON モードのときに使用できます。

■間欠時間の調節✤

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが 1 回作動します。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー

Ⓐ ON：低速作動
Ⓑ INT：間欠作動
Ⓒ OFF：停止
Ⓓ [ウォッシャー記号]：ウォッシャー

■リヤワイパースイッチ

パワーモード※1 が ON モードのときに使用できます。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを[ウォッシャー記号]まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを R に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT（間欠）	間欠作動
LO（低速） HI（高速）	連続作動

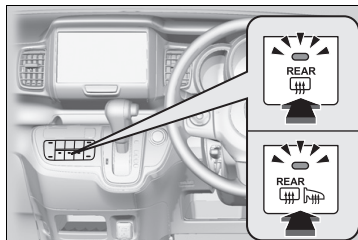
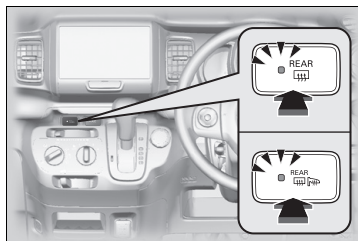
※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»ワイパー/ ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチをOFF、パワーモード※1 をアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

各部の操作

リヤデフロスタースイッチ / ヒーテッドドアミラー✤スイッチ

オートエアコン装備車

マニュアルエアコン装備車

パワーモード※1 が ON モードのときに、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとりたいときに使用します。
スイッチを押すとシステムが ON になります。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

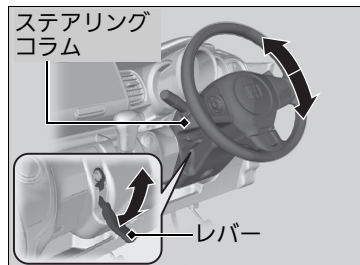
»リヤデフロスタースイッチ / ヒーテッドドアミラー✤スイッチ

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ハンドルの調節✤

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。

2. ハンドルの位置を調節する。
▶調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。

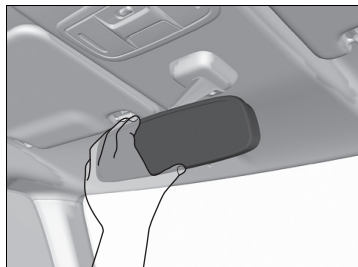
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。

≫ハンドルの調節✤

⚠注意

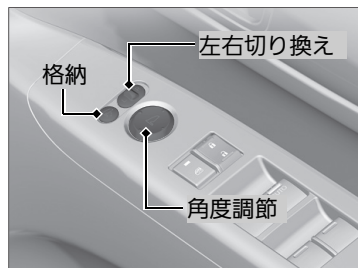
走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

ドアミラー

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモード※1 が ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

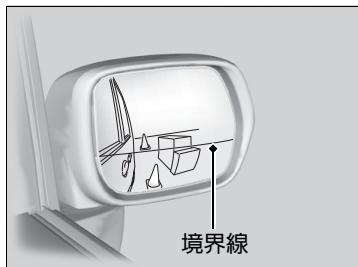
※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

»ドアミラー

パワーモード※1 が OFF モードまたはアクセサリーモードのときは、手動で格納、開放をすることもできます。

■広角ドアミラー

運転席側、助手席側ともにドアミラー面の下部に付いている曲率を変えたミラーにより、リヤタイヤ付近を見ることができます。

■アクアクリーンミラー✤

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。

2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。

▶汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。

3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

≫広角ドアミラー

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

境界線よりも下側に映る物は、通常のドアミラーよりも遠くにあるように見えます。

≫アクアクリーンミラー✤

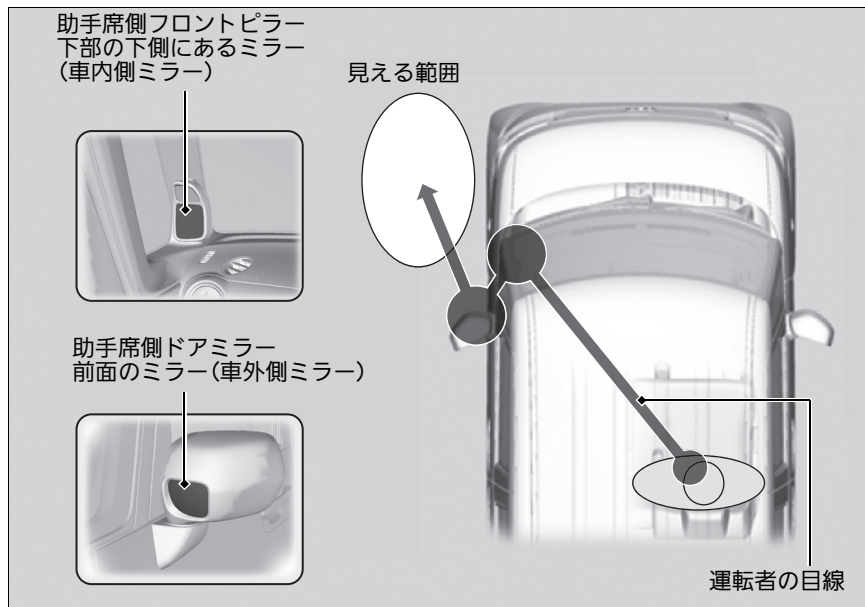
アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サイドビューサポートミラー

助手席側ドアミラー前面と助手席側フロントピラー下部に付いているミラーにより車両左側前方を見ることができます。

停車時や発進時、対向車とのすれ違いや路肩に寄せるときなど、車両左側前方を確認するときに役立ちます。
車両左側前方の様子が車外側ミラーに映り、車内側ミラーに反射して見えます。

≫サイドビューサポートミラー

アドバイス

ミラー表面の傷付きや曇りによる視界の妨げを防止するために次のことをお守りください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 車外側ミラー表面が凍結しているときは解氷剤やプラスチックの板を使用せずに、温水や水道水を使って溶かす
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

汚れや水滴を拭き取るときはきれいな布で拭き取ってください。

水洗いでミラーの汚れが落ちない場合や、誤ってワックスなどを塗布してしまった場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ってください。

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドビューサポートミラーの角度調節はできません。

サイドアンダーミラー

助手席側フロントピラーの下部についています。
停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

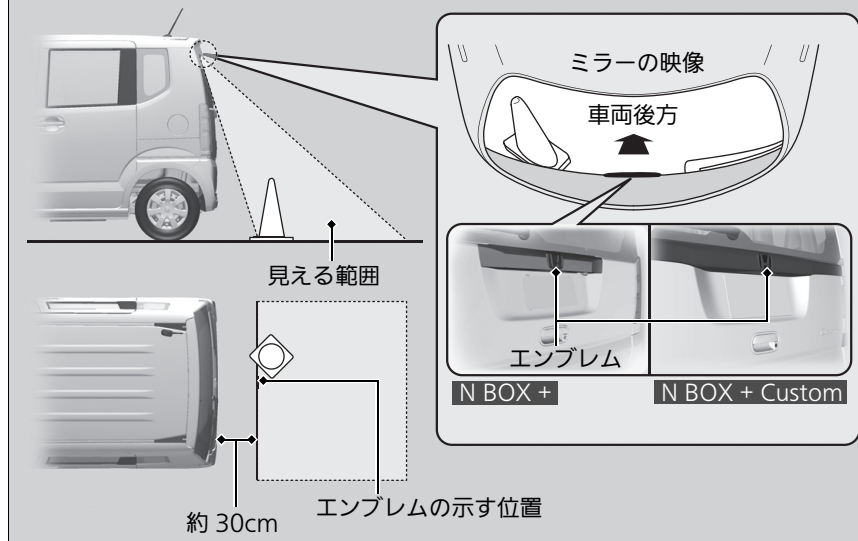
≫サイドアンダーミラー

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドアンダーミラーは車両左側を見るために下向きになっています。

サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

後方視角支援ミラー

テールゲート内部に装着されているミラーにより、車両後方付近を見ることができます。エンブレムは自車と車両後方の対象物との目安になります。

ミラーを見る姿勢によって、見える範囲やエンブレムの示す位置が異なります。
バンパーから約 30cm までの範囲は映りません。

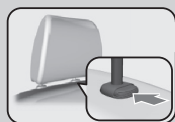
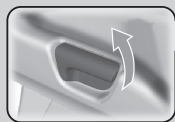
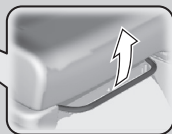
≫後方視角支援ミラー

見える範囲には限度があります。また、夜間や暗い所では見えにくくなることがあります。後方、および周囲の安全は必ず目視などで確認してください。

後方視角支援ミラーの角度調節はできません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントシート / ヘッドレストの動かしかた

»フロントシート / ヘッドレストの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下にものを置かない。
ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

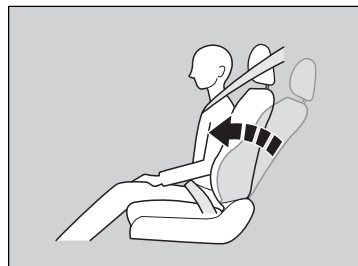
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

次ページに続く

■フロントシートの調節

■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

»フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

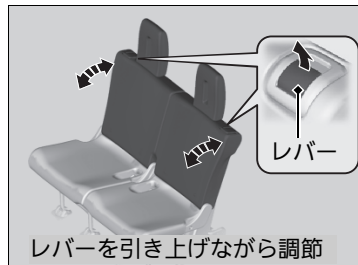
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート✤

背もたれの調節

レバーを引き上げながら調節

背もたれは、左右別々に倒すことができます。レバーを引いて、背もたれの角度を調節します。

次ページに続く

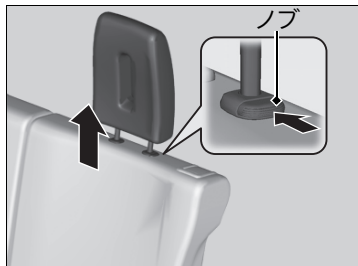
》リヤシート✤

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。

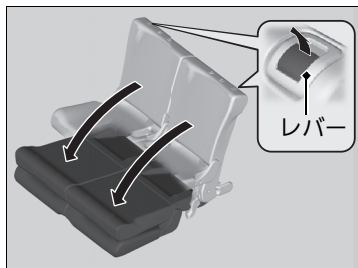
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■背もたれの倒しかた

■倒しかた

1. ヘッドレストを取り外す。

ヘッドレスト P.103

2. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

■戻しかた

背もたれを起こして固定する。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

≫背もたれの倒しかた

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

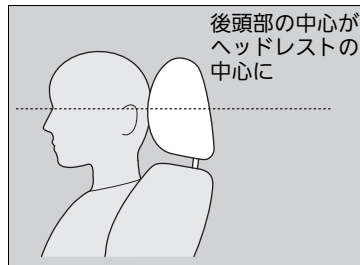
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

シートを格納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。

ヘッドレスト

■フロントシートのヘッドレストの調節

後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

■フロントシートヘッドレスト

取り外すとき：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

取り付けるとき：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

次ページに続く

»ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

リヤシート装備車

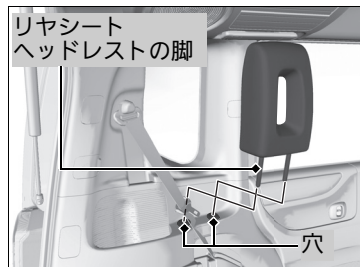
■リヤシートヘッドレスト

取り外すとき：

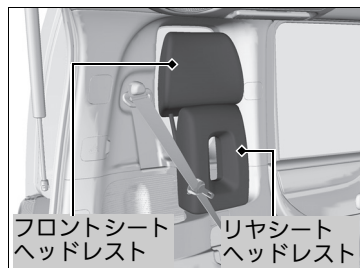
ノブを押して取り外します。

取り付けるとき：

ヘッドレストの脚を元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

■ヘッドレストの収納✤

ヘッドレストは収納することができます。

1. リヤシートヘッドレストの脚を穴に差し込む。

フロントシート
ヘッドレスト
リヤシート
ヘッドレスト

2. フロントシートヘッドレストをリヤシートヘッドレストの上に置く。

≫ヘッドレストの収納✤

走行前に必ずヘッドレストを取り付けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アームレスト

■フロントシートアームレストの操作

前に倒して使います。

≫アームレスト

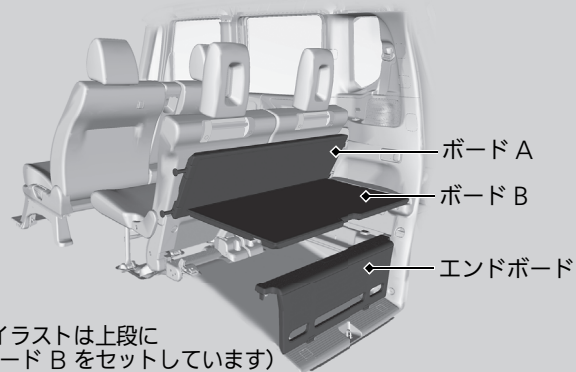
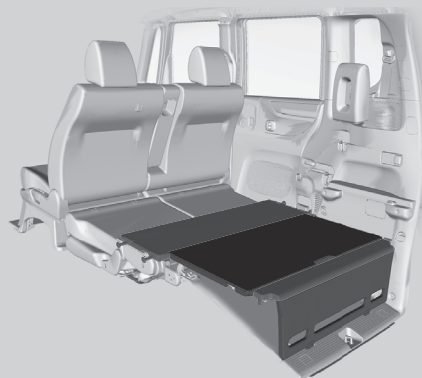
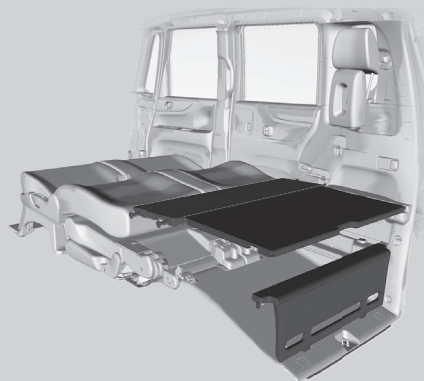
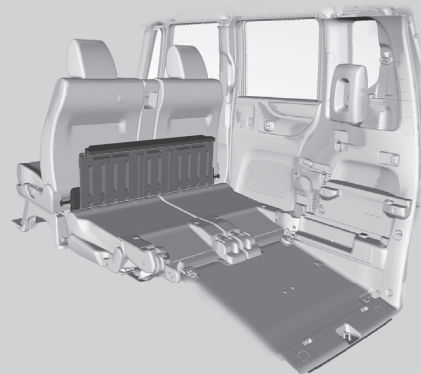
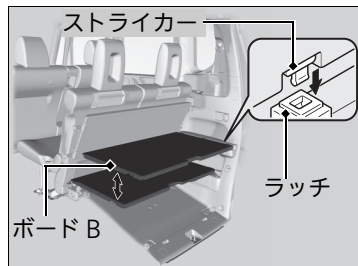
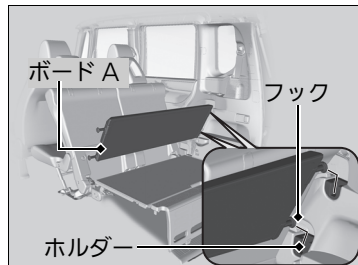
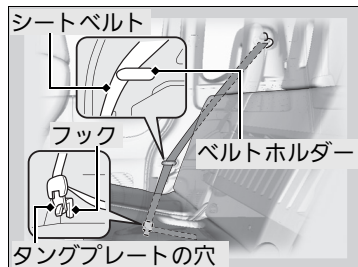
⚠注意

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

ボードアレンジ

✤:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ 4 人乗車モード

1. シートベルトをベルトホルダーに差し込み、タングプレートの穴をフックにかける。

2. ボードAをリヤシート背面にセットする。
   ▶ボードAのフックを車両側のホルダーに確実にセットしてください。
   ▶ボードAのフックの色と、車両側のホルダーの色を合わせた状態でセットしてください。

3. ボード B をセットする。
   ▶ストライカーをラッチに差し込み、確実に固定してください。
   ▶ボードBは上段と下段で使用できます。

次ページに続く

≫ボードアレンジ

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

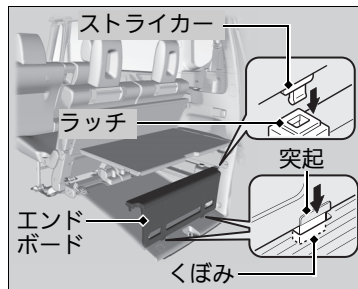
マルチボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

≫4 人乗車モード

⚠注意

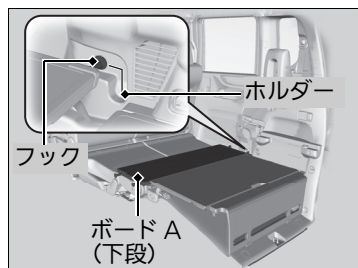
リヤシートに乗車するときは、リヤシートの背面に必ずボード A をセットする。
正しくセットされていないと、ブレーキや衝突のときなどに荷室の物が飛び出しけがをするおそれがあります。

エンドボードは確実にセットしてください。

4. エンドボードをセットする。
▶ボード上部のストライカーをラッチに差し込み、ボード下部の突起を車両側のくぼみに差し込んでください。

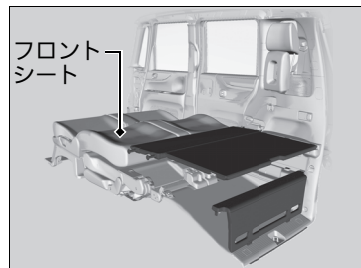
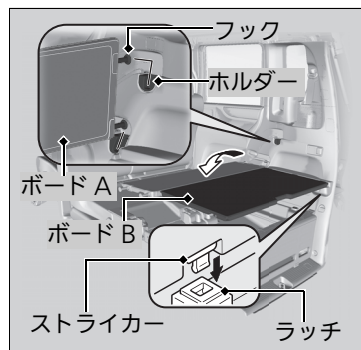
■フラットモード

1. シートベルトをベルトホルダーに差し込み、タングプレートの穴をフックにかける。

2. リヤシートヘッドレストを取り外し、収納する。
➡ **ヘッドレスト** P.103

3. リヤシートを前方に倒す。
➡ **背もたれの倒しかた** P.102

4. ボード A を下段にセットする。
▶ボードAのフックを車両側のホルダーに確実にセットしてください。

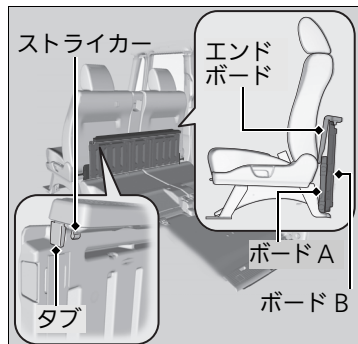
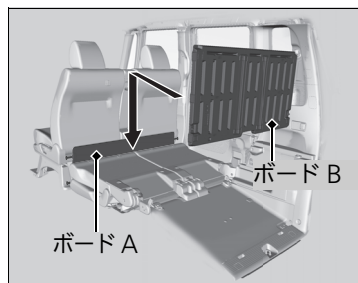
■ベッドモード

1. シートベルトをベルトホルダーに差し込み、タングプレートの穴をフックにかける。
2. リヤシートヘッドレストを取り外し、収納する。
   ➡ **ヘッドレスト** P.103
3. リヤシートを前方に倒す。
   ➡ **背もたれの倒しかた** P.102

4. ボードAのフックを車両側のホルダーから外し、ボード A の上側を前方に倒す。
5. ボード B を上段にセットする。
   ▶ストライカーをラッチに差し込み、確実に固定してください。
6. フロントシートヘッドレストを取り外し、収納する。
   ➡ **ヘッドレスト** P.103

7. 前後調整位置レバーを引き上げながら、フロントシートを前方いっぱいに動かす。
   ➡ **フロントシート / ヘッドレストの動かしかた** P.99
8. 背もたれ調整レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。
9. 前後調整位置レバーを引き上げながらフロントシートを後方いっぱいに動かす。

次ページに続く

■スロープモード

1. シートベルトをベルトホルダーに差し込み、タングプレートの穴をフックにかける。
2. リヤシートヘッドレストを取り外し、収納する。
   ヘッドレスト P.103
3. リヤシートを前方に倒す。
   背もたれの倒しかた P.102

4. ボードAを取り外し、フロントシートの背面に収納する。
5. ボードBを取り外し、ボードAの背面に収納する。
   ▶ボードBはイラストの向きを参考に収納してください。
6. エンドボードを取り外し、ボードBの上部にセットする。
   ▶エンドボードのストライカー部とタブをボードBに掛けてください。

≫スロープモード

エンドボードを取り外す際には、荷室の物が落ちないよう注意してください。

フロントシートの背面に収納できない場合は、フロントシートを前に移動してください。

室内灯

室内灯スイッチ

ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

エンジンスイッチ装備車

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

»室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

エンジンスイッチ装備車

- キーを抜いてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモード※1 を ON モードにしたとき

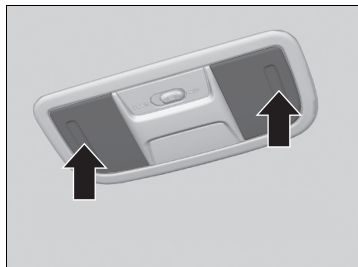
エンジンスイッチ装備車

- エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態でドアを閉めたとき。

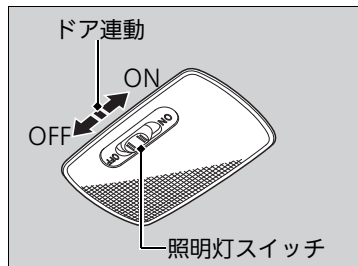
パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 30 分後に消灯します。

エンジンスイッチ装備車

- キーが差し込まれていない状態のときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 30 分後に消灯します。

マップランプ

夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

カーゴスペース照明灯

■ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■ドア連動
ドア、テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

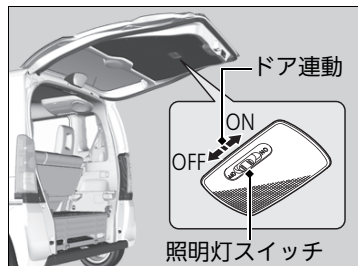
■OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく消灯。

≫マップランプ

以下のときレンズを押しても消灯できません。

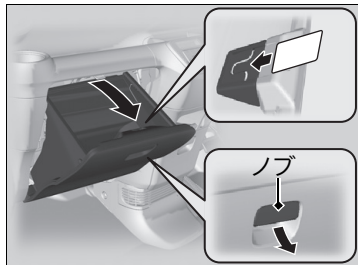
- 室内灯スイッチがドア連動でドアが開いているとき

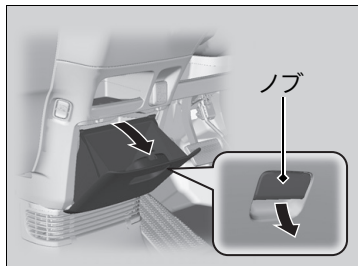
■テールゲートランプ

■ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■ドア連動
ドア、テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく消灯。

室内装備品

■グローブボックス

ノブを引くと開きます。
内側にカードホルダーがあります。

■センターコンソールボックス

ノブを引くと開きます。

≫グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

≫センターコンソールボックス

⚠警告

走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。
センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ルーフコンソールボックス✤

ノブを下げると開きます。

■フックバー✤

ハンガーなどをかけるのに便利です。

≫ルーフコンソールボックス✤

炎天下の駐車は高温になりますので耐熱性の低いものは入れたままにしないでください。
変形やひび割れを起こすことがあります。

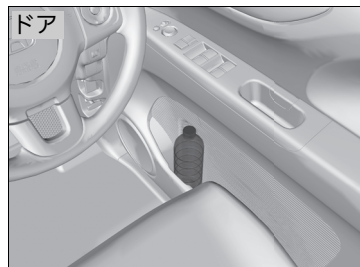
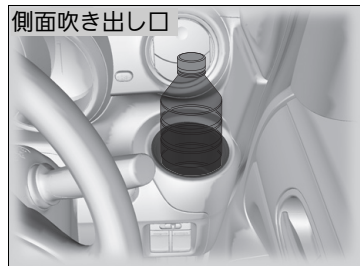
重い物や破損しやすい物、鋭利な物など入れないでください。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

≫フックバー✤

走行時は物を吊るさないでください。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ドリンクホルダー

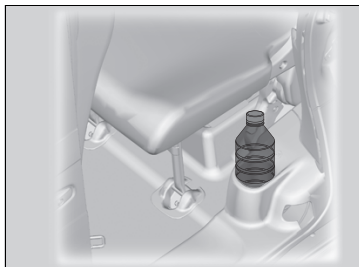
■フロントシート用ドリンクホルダー

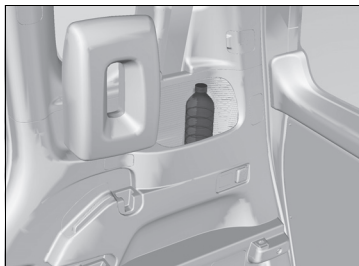
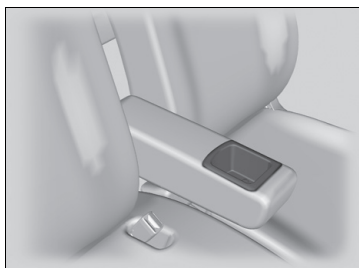
運転席側と助手席側にあります。

»ドリンクホルダー

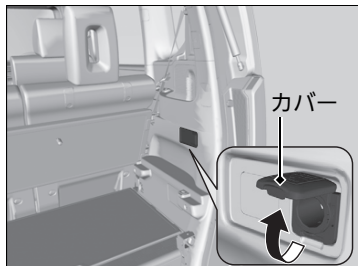
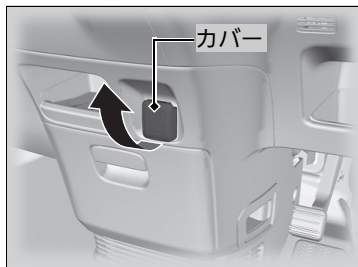
⚠注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■リヤ側ドリンクホルダー

運転席側と助手席側にあります。

■フロントシート用アームレストトレイ

アームレストを前に倒して使います。

次ページに続く

アクセサリーソケット

パワーモード※1がアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

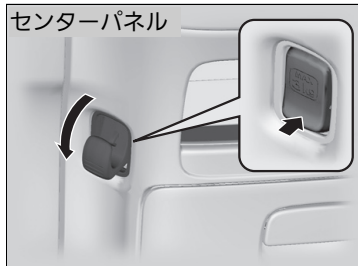
カバーを開けて使います。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫アクセサリーソケット

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

消費電力 120W(10A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

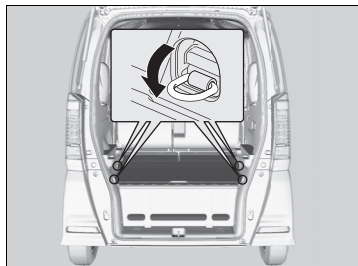
バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

コンビニフック

フックを手前に倒して使います。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

コンビニフック

アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

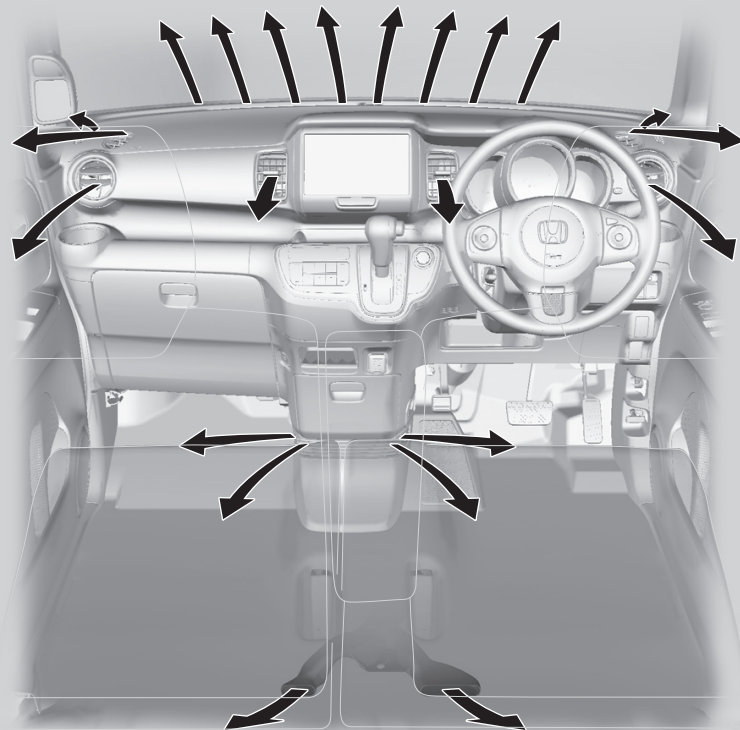
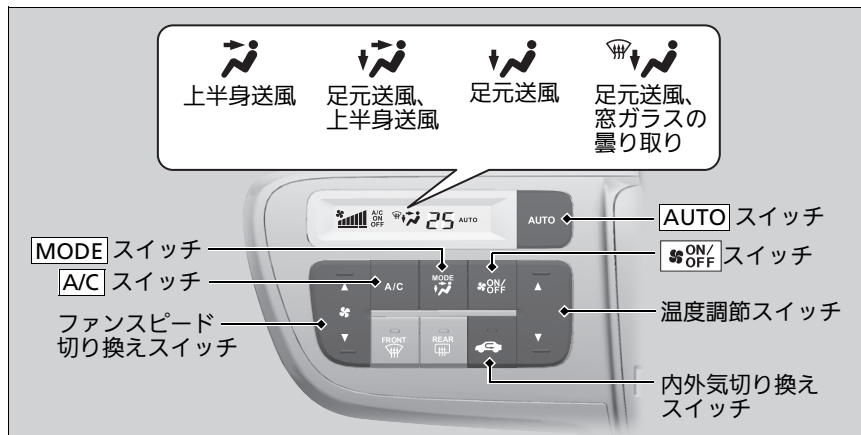
次ページに続く

タイダウンフック

起こして使います。
荷物を固定するときに使います。

≫タイダウンフック

⚠注意

走行中に荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

エアコンの吹き出し口

オートエアコン*の使いかた

エンジンを始動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節スイッチで温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFFを押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

»オートエアコン*の使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき「AUTO」の表示は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

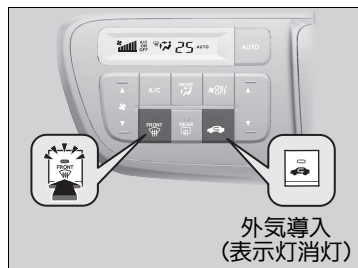
ON/OFFを押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。

アイドリングストップシステム装備車

アイドリングストップ中は送風に切り換わります。

*:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

外気導入
(表示灯消灯)

FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

内気循環
(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. 内気循環を押す。

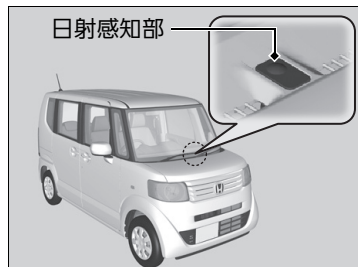
≫前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

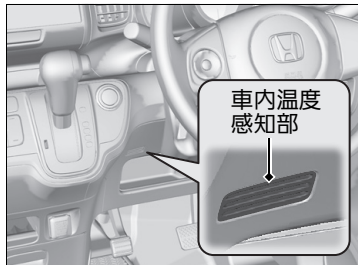
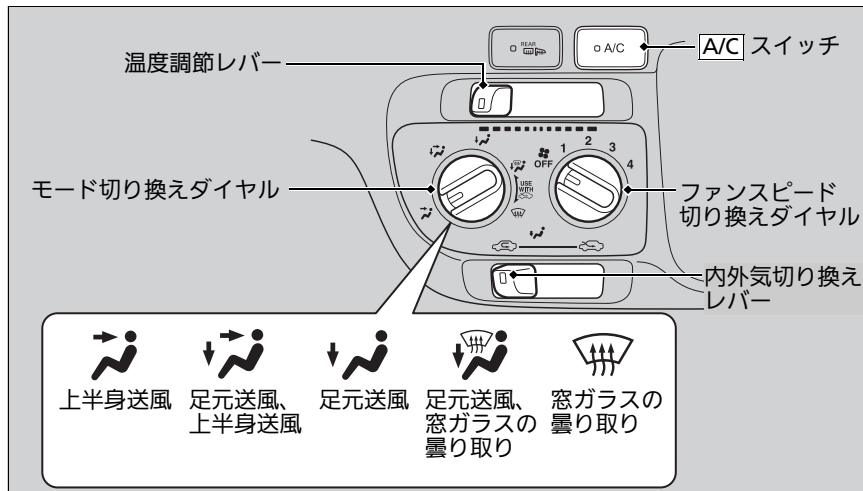
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

アイドリングストップシステム装備車
アイドリングストップ中にFRONTを押すと、エンジンが自動的に再始動します。

オートエアコンのセンサー✤

オートエアコンには、センサー(日射感知部、車内温度感知部)が付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マニュアルエアコン✤の使いかた

エンジンを始動してから使用します。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節する。

2. モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選ぶ。

3. 温度調節レバーで吹き出し風の温度を調節する。

4. 冷房や除湿暖房をするときは、 A/C を押す。

5. 停止するときは、ファンスピード切り換えダイヤルを OFF にする。

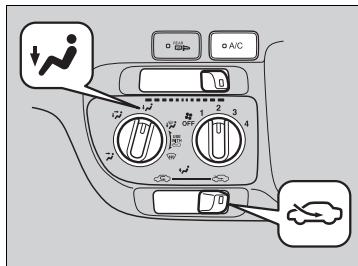
■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて、内外気切り換えレバーを操作して内気 / 外気を切り換えてください。

- 内気 ：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気 ：換気を行う場合

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■暖房のしかた

暖房はエンジンの熱を利用して、車内の空気を暖めます。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを[足元]にする。
3. 温度調節レバーで希望の温度に調節する。
4. [外気導入]に切り換える。

■急速に車内を暖めたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強（4）にする。
2. モード切り換えダイヤルを[足元]にする。
3. 温度調節レバーを最大温風にする。
4. [内気循環]に切り換える。

■曇り止め暖房をしたいとき

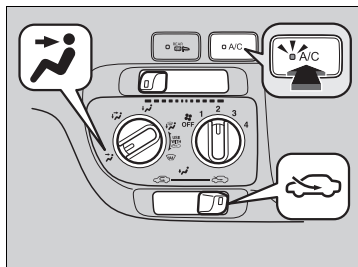
エアコンをONにすると除湿暖房ができます。外気が除湿され、乾燥した空気で車内を暖めるので、曇り止めに役立ちます。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを[足元/デフロスター]にする。
3. 温度調節レバーで希望の温度に調節する。
4. A/C を押す。（表示灯点灯）
5. [外気導入]に切り換える。

»暖房のしかた

急速暖房で車内が暖まったら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

各部の操作

■冷房のしかた

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを［ ］にする。
3. 温度調節レバーで希望の温度に調節する。
4. ［A/C］を押す。（表示灯点灯）
5. ［ ］に切り換える。

■急速に車内を冷やしたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強（［4］）にする。
2. モード切り換えダイヤルを［ ］にする。
3. 温度調節レバーを最大冷風にする。
4. ［A/C］を押す。（表示灯点灯）
5. ［ ］に切り換える。

»冷房のしかた

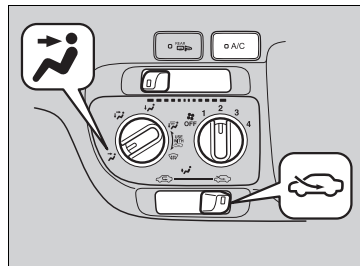
急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

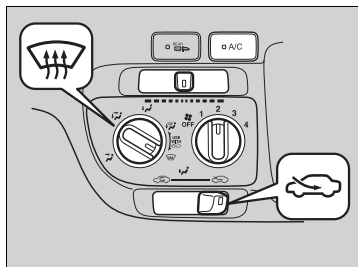
急速冷房で車内が冷えたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の空気が汚れます。

次ページに続く

各部の操作

換気のしかた

空気取り入れ口から外気を取り込み、車内の空気を循環させて後部のサイドパネル付近の排出口から排出し、換気します。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルをにする。
3. 温度調節レバーを最大冷風付近にする。
4. に切り換える。

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

1. ファンスピード切り換えダイヤルを回し、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを[デフロスター]にする。
3. 温度調節レバーで希望の温度に調節する。
4. [外気導入]に切り換える。

■急速に霜を取りたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強(4)にする。
2. モード切り換えダイヤルを[デフロスター]にする。
3. 温度調節レバーを最大温風にする。
4. [内気循環]に切り換える。

■湿度の高いとき

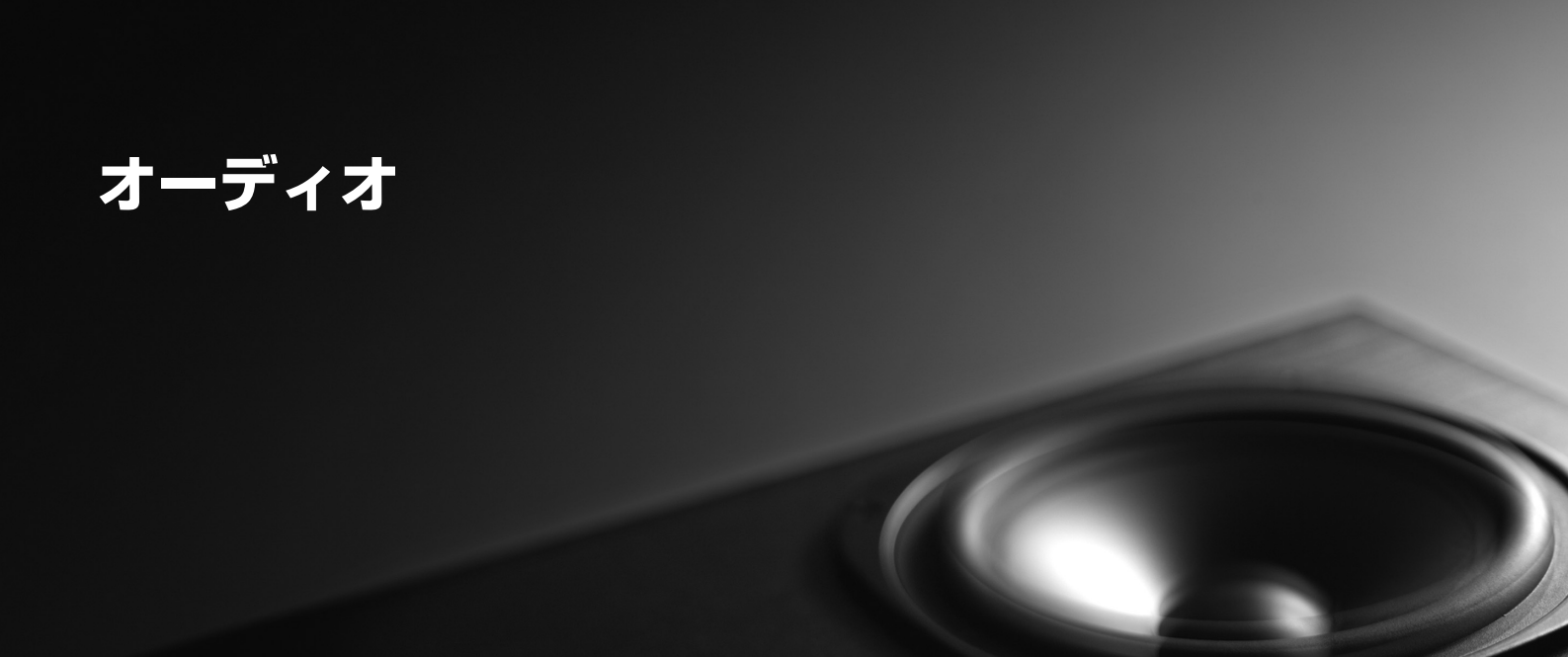
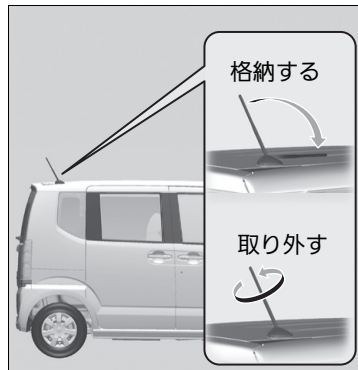
1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを[デフロスター]にする。
3. 温度調節レバーで希望の温度に調節する。
4. A/C を押す。(表示灯点灯)
5. [外気導入]に切り換える。

≫前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

エアコンをONにしているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

アイドリングストップ中にファンスピードをOFF 以外、モード切り換えダイヤルを[デフロスター]にすると、エンジンが自動的に再始動します。

オーディオ装置

アンテナ

■マイクロアンテナ

マイクロアンテナは格納、取り外しができます。
ラジオを受信するときは、節度感のあるところまで立ててください。

»アンテナ

アドバイス

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P.195
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

次ページに続く

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

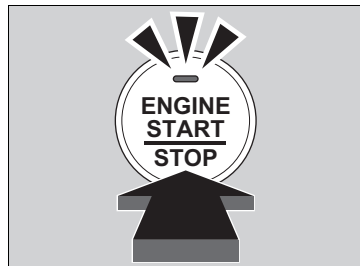
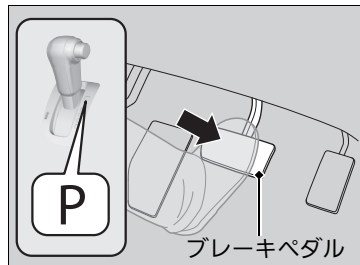
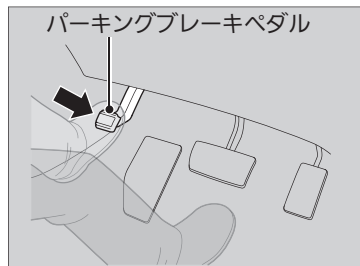
≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➡ **シートの調節** P.99
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調整したか？
  ▶正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➡ **ミラー類の調節** P.94
  ➡ **ハンドルの調節**✤ P.93
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➡ **シートベルトの着用** P.23
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➡ **車内での施錠 / 解錠** P.65
- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➡ **警告灯** P.44

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エンジンの始動

1. パーキングブレーキをかける。

2. セレクトレバーが P であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。

3. アクセルペダルを踏まずに、ENGINE START/STOP ※1 を押す。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

▶▶エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

ENGINE START/STOP ※1 **はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。**
- エンジンがかからない場合は、10秒以上待ってから再始動してください。

エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. セレクトレバーを P にする。

2. ENGINE START/STOP ※1 を押す。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

エンジンの始動

イモビライザーシステム装備車

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

イモビライザーシステム✤ P.79

Honda スマートキーシステム装備車

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき✤ P.221

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを D にする。
   ▶後退する場合は R にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
   ▶ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
   パーキングブレーキ P.156
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

セレクトレバーが P 、 N 以外のとき、ヒルスタートアシスト(上り坂発進補助機能)により、急な坂道に停車するとブレーキ力が自動的に保持されます。
ブレーキペダルから足を離すと約1秒後に解除されます。

発進補助ブレーキ機能を装備しています。
セレクトレバーが D のとき、停止状態からの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持しています。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

≫走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

運転

雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

≫雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

≫その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

オートマチックについて

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

セレクトレバーが D S L で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

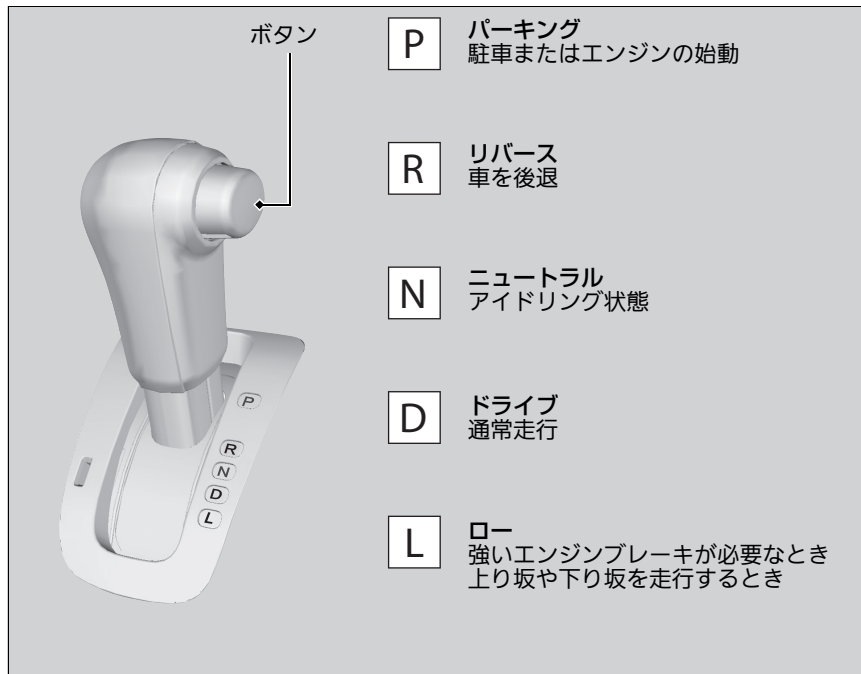
上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。
滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

7 速マニュアルシフトモード非装備車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

次ページに続く

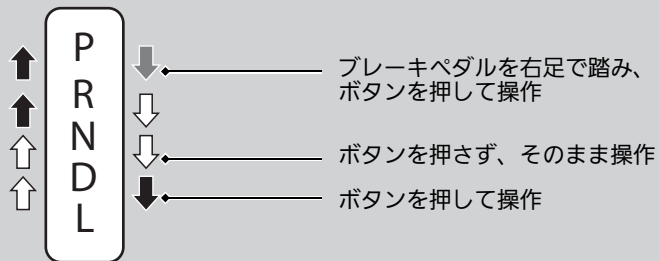
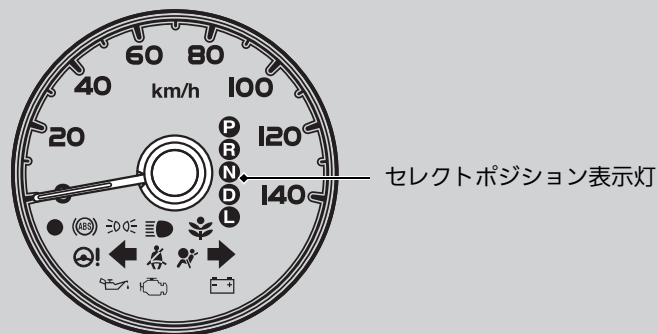
≫シフト操作

セレクトレバーが P 以外のときは、パワーモード※1 が OFF モードになりません。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

N のポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。
パワーモード※1をONモードにすると、 D の表示灯が数秒点灯します。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。
車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

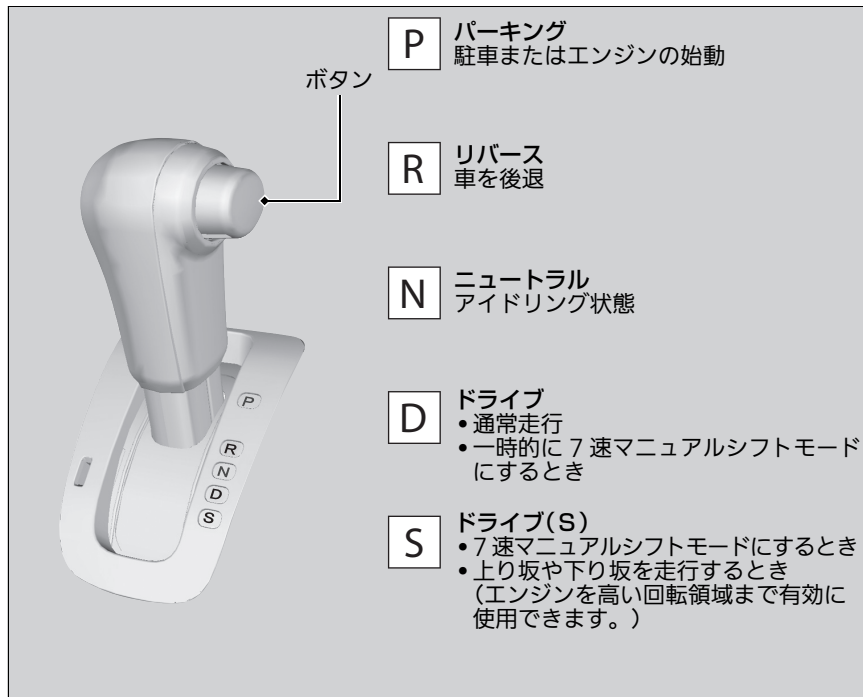
走行中にセレクトレバーをどのポジションにしても D の表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。
先にブレーキペダルを踏んでください。

シフト操作

7 速マニュアルシフトモード装備車

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき

»シフト操作

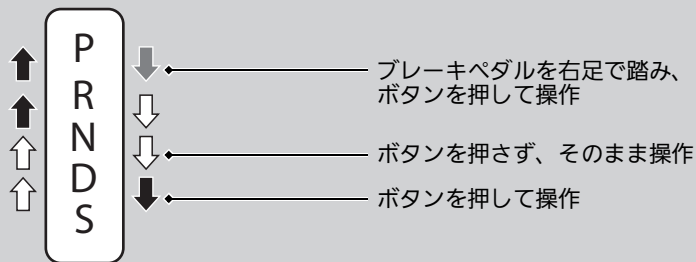
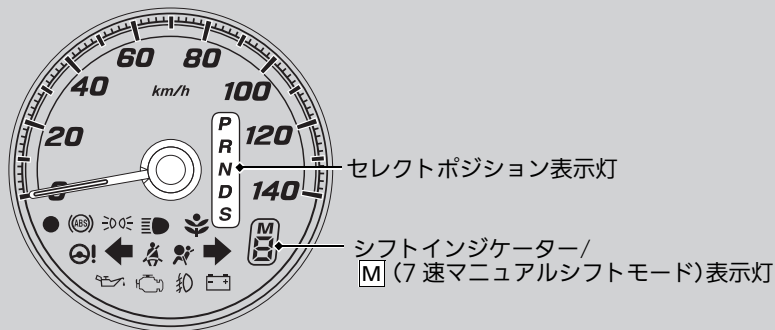
セレクトレバーが P 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

N のポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。
パワーモードを ON モードにすると、D の表示灯が数秒点灯します。

≫セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。
車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーをどのポジションにしても D の表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。
先にブレーキペダルを踏んでください。

■7速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときも、使用してください。

■セレクトポジションが D のとき

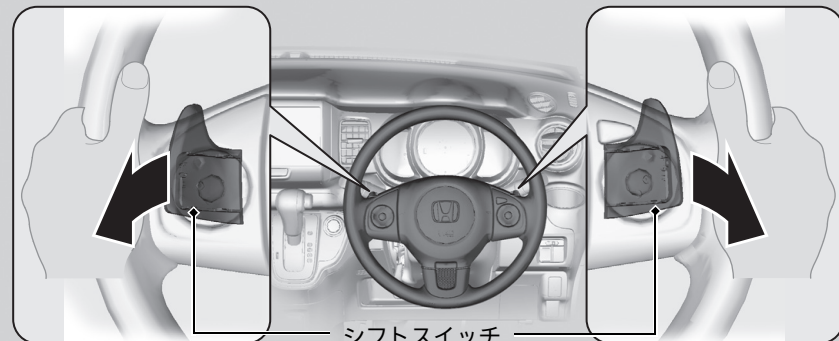
一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。
一定速走行や加速の状態になると、7速マニュアルシフトモードは自動的に解除され、シフトインジケーターが消灯します。
カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■セレクトポジションが S のとき

7速マニュアルシフトモードとなり、 M 表示灯とシフトインジケーターが点灯します。シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。
車速が上がりエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に1段シフトアップします。
発進は1速でのみ行うことができます。
モードを解除する場合は、セレクトレバーを S から D に動かしてください。
7速マニュアルシフトモードが解除され、 M 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

次ページに続く

7 速マニュアルシフトモードの操作

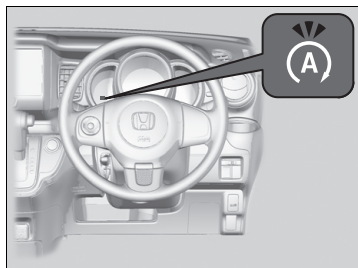
1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。

7 速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

エンジン保護する為に、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

アイドリングストップシステム✤

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。

表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

■アイドリングストップシステムの ON/OFF

アイドリングストップシステムをOFFにするには、ECON スイッチを押してください。ECON 表示灯が消灯し、システムが OFF になります。

»アイドリングストップシステム✤

専用のバッテリーを使用しています。
同等の性能のものと交換をしてください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

»アイドリングストップシステムの ON/OFF

アイドリングストップ中に ECON スイッチを押すと、エンジンが再始動します。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

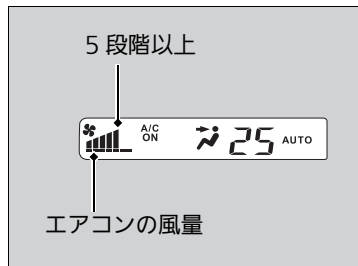
アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

アイドリングストップしない条件

- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- セレクトレバーを D 以外にしているとき
- ボンネットが開いているとき
- ECON モードが OFF のとき
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のとき

5 段階以上

A/C ON 25 AUTO

エアコンの風量

オートエアコン装備車

- 外気温が−20℃以下または40℃以上のとき
- エアコンの風量が 5 段階以上のとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo のとき
- FRONT が ON のとき

マニュアルエアコン装備車

- エアコンの風量が 1 段階以上で、モード切り換えダイヤルを にしたとき

アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- 標高が高いとき

オートエアコン装備車

- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき

≫アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。
ボンネットを開けたときは、ENGINE START/STOP でエンジンを再始動させてください。

エンジンの始動 P.135

アイドリングストップ中に、ENGINE START/STOP を押すとアクセサリーモードになり自動で再始動しません。
通常のエンジンの始動操作をしてください。

エンジンの始動 P.135

運転

■エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

■ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件

- ECON スイッチを押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- セレクトレバーを R、 L にしたとき、または N から D に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき

オートエアコン装備車

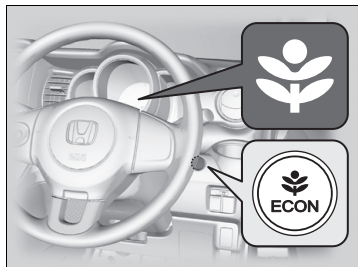
- FRONT を押したとき
- エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき

マニュアルエアコン装備車

- エアコンの風量が 1 段階以上で、モード切り換えダイヤルを にしたとき

≫エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

運転

ECON スイッチ

エンジン、トランスミッション、オートエアコン✤、クルーズコントロール✤ の作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。
パワーモード※1をONモードにしたときは、常に ECON モードが ON になり、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

アイドリングストップシステム装備車

ECON スイッチを押すと、アイドリングストップシステムが OFF となりメーター内の ECON 表示灯が消灯します。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

アイドリングストップシステム装備車

アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムは作動停止状態になります。このとき(A)は消灯します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

クルーズコントロール✤

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。

こんなときに

■使用できるシフトポジション
D または S
■使用できる車速
約 30 ～ 100km/h の範囲の希望値

十分な車間距離がある

操作

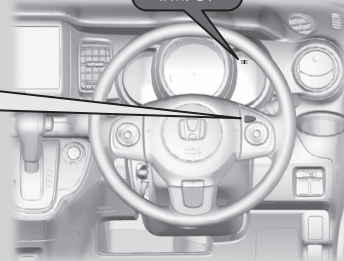
■ハンドルの CRUISE スイッチを押す

メーターの CRUISE MAIN が点灯
クルーズコントロールが ON になります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

》クルーズコントロール✤

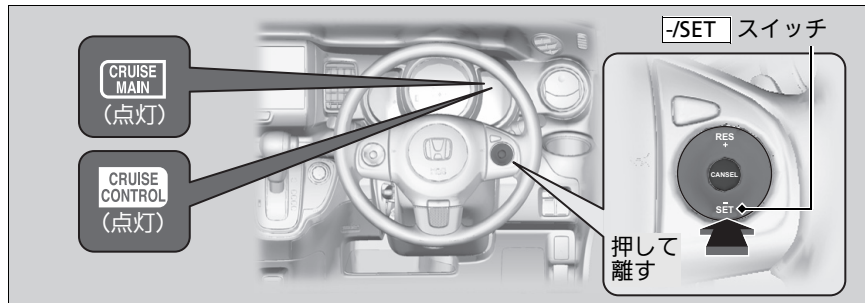
⚠警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。
道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**
  道路状況に合った速度で走行できません。
- **急な下り坂のある道路**
  エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。
- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

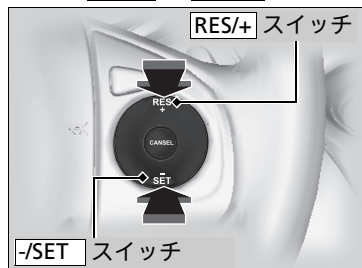
パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、-/SET を押します。
-/SET を離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が点灯します。

車速を調節するには

手元の RES/+ と -/SET の操作で車速を上げ / 下げすることができます。

RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

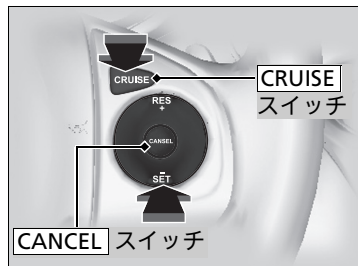
-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

»車速をセットするには

自動定速走行をしないとき

安全のため CRUISE を押してOFFにしてください。
パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにすると、CRUISE は自動的に OFF になります。

運転

解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が消灯します。

- CANCEL を押す
- CRUISE を押す
- ブレーキペダルを踏む

≫解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h 以上の車速で走行中に RES/+ を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 25km/h 未満になったとき
- CRUISE で OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると、自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS（アンチロックブレーキシステム）機能 P.158

■TCS（トラクションコントロールシステム）機能

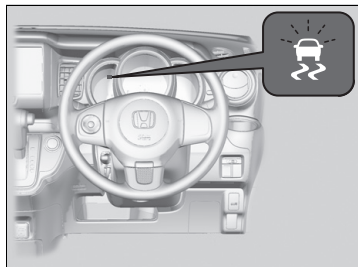
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P.159

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、[OFF]でVSA を OFF にするとエンジントルク抑制機能が停止し、駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

この際、TCS 機能と横滑り抑制機能が OFF になるため、走行には十分に気をつけてください。

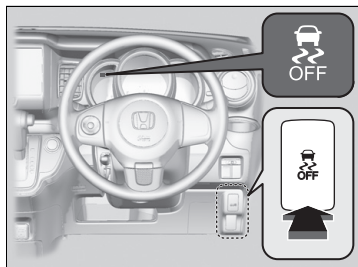
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときはシステムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

運転

VSA の ON と OFF

VSA を停止(OFF)状態にするには、[OFF] を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
VSA が停止状態になり VSA OFF 警告灯が点灯します。
再度使用(ON)するには、[OFF] を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

4WD(四輪駆動機構)✤

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

»VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

»4WD(四輪駆動機構)✤

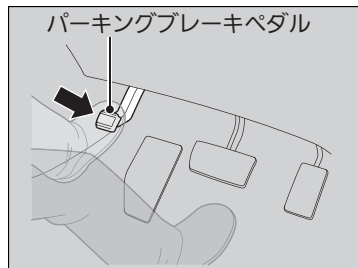
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

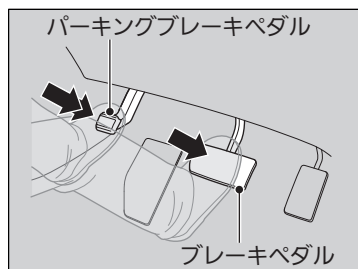
4WD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため 4WD から 2WD に切り換わることがあります。
しばらくして油温が下がると、4WD に復帰します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ブレーキシステム

■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。

■パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込む。

■パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

≫パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。
パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、「パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー」が鳴ります。
完全に解除すると、ブザーは止まります。
停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.159

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.158

≫フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

ABS 警告灯
パワーモード※1 を ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。
- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

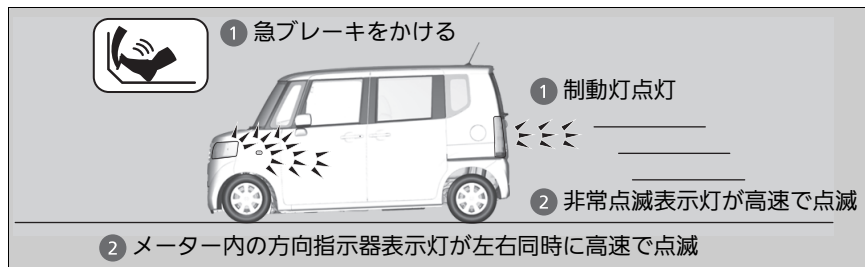
ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ VSA（ビークルスタビリティアシスト） P.154

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

»エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABSが一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. セレクトレバーは D のまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを P に入れる。
4. エンジンを停止する。
   ▶車から離れるときは必ず施錠してください。
   ▶坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

»駐車する

⚠注意

駐車時はエンジンを停止する。
万一、セレクトレバーが[P][N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。
雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、石など輪留めをしてください。

運転

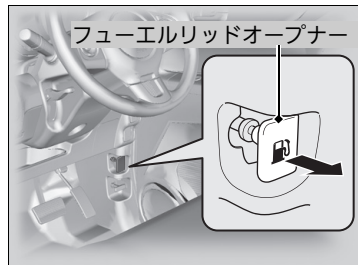
指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

2WD 車 35 リットル
4WD 車 30 リットル

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元のフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

次ページに続く

≫指定燃料について

アドバイス

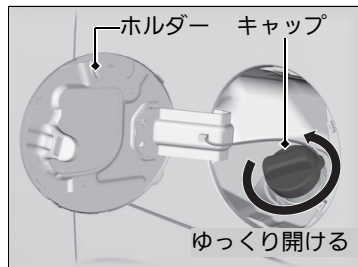
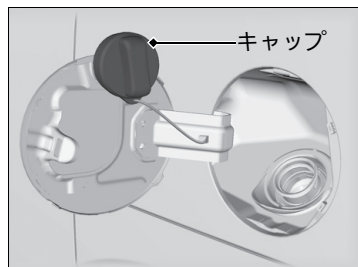
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。
- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

≫給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

5. キャップはホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
   ▶満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

》給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

7. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
▶フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

≫給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

運転

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **高速走行、登坂走行直後はすぐにエンジンを停止しない**
  必ずアイドリング運転を行い、ターボ装置を冷却します。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

- **エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る**
  タービンは毎分10万回転以上の高回転で回り、かつ700℃以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車✤について

エンジン停止前のアイドリング運転時間の目安は、下表の通りです。

運転状況	アイドリング時間
市街地、郊外などの一般走行	必要なし
高速走行	約 1 分
登坂路の連続走行	約 2 分

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、下表の通りです。

エンジンオイル	5,000km ごとまたは 6 か月ごと(どちらか早い方)
オイルフィルター	10,000km ごとまたは 1 年ごと(どちらか早い方)

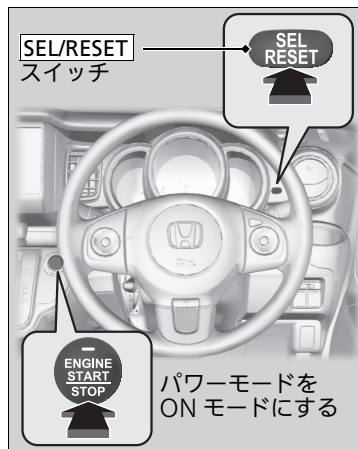
推奨エンジンオイル P.177

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると高水温警告灯が点滅または点灯することがありますが、機能的に問題はありません。
約1分間アイドリング運転を行うか、走行すると警告灯は消灯します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エンジンオイルメンテナンス表示灯

パワーモードをONモードにしたときに、リセットしてからの走行距離に応じて、エンジンオイルの交換時期の目安を表示灯の点滅または点灯でお知らせします。

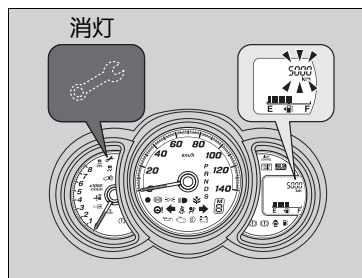
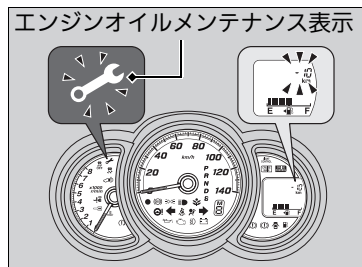
リセットしてからの走行距離	表示灯の状態
4,500km未満	数秒点灯したあと、消灯
4,500km以上　5,000km未満	数秒点灯したあと、約10秒間点滅してから消灯
5,000km以上	点灯 ▶すみやかにエンジンオイルを交換してください。エンジンオイルを交換したあとは、表示灯をリセットしてください。

■表示灯のリセット

1. 車を安全な場所に停車する。
2. ライトスイッチをOFFにする。
3. SEL/RESET を押したまま、パワーモードをONモードにする。

≫表示灯のリセット

エンジンオイル交換後、走行距離をリセットするまで表示灯は点灯し続けます。

エンジンオイル交換直後にリセット操作を行わないと、次回の交換時期の表示を正しくできません。

次ページに続く

4. そのまま SEL/RESET を、エンジンオイルメンテナンス表示灯が点滅に切り換わるまで押し続ける。
   ▶同時にインフォメーションディスプレイの表示がエンジンオイルの交換時期までの距離表示に切り換わり、点滅します。
5. エンジンオイルメンテナンス表示灯と走行距離表示が点滅を始めたら、SEL/RESET から手を離す。

6. 再度、走行距離計が 5000 になるまで SEL/RESET を押す。
   ▶走行距離表示が5000になると、エンジンオイルメンテナンス表示灯は消灯します。
7. SEL/RESET から手を離す。
   ▶インフォメーションディスプレイが通常表示に戻ります。

運転

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

≫車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

≫点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する
  ▶エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する
  ▶部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する
  ▶指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
  アイドリングストップシステム装備車
  ▶アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する
  ▶火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

»メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

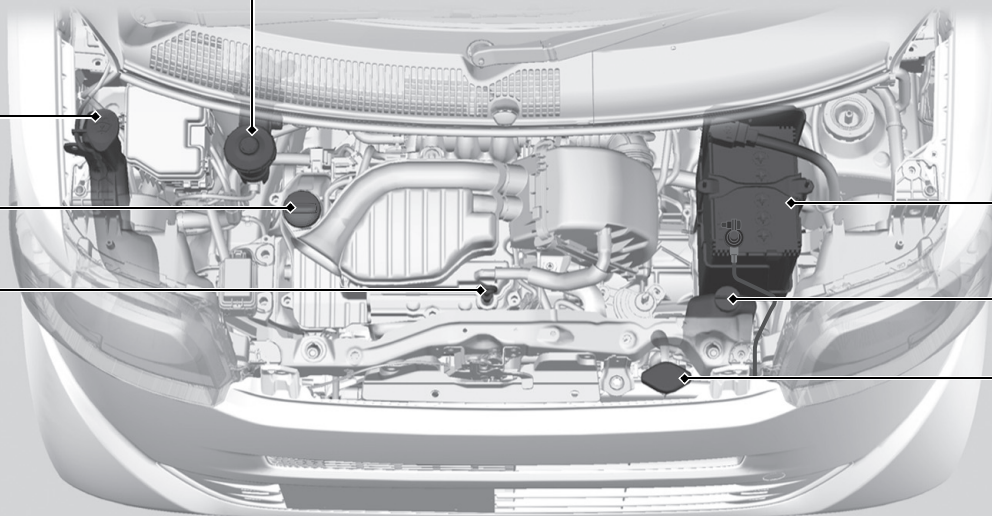
適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

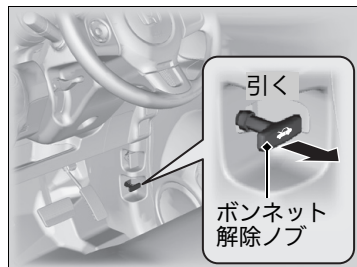
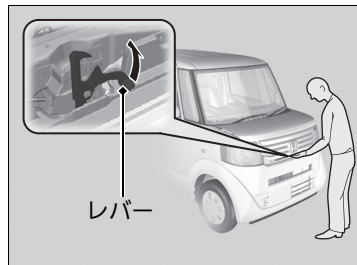
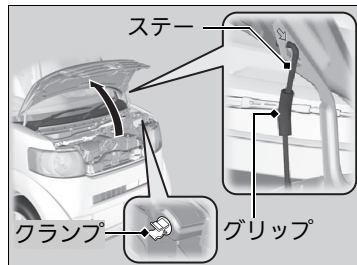
メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

エンジンルーム内のメンテナンス項目

※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける

1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを上に押し上げロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

≫ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップシステム装備車

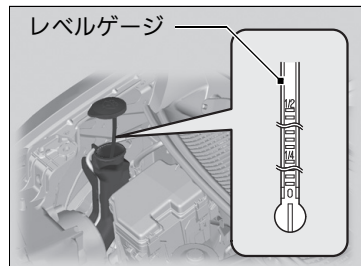
アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

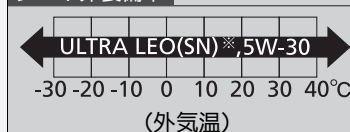
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

推奨エンジンオイル：
Honda 純正エンジンオイル
Honda 純正 エンジンオイル P.241,243,245,247
API SM 級または SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。

減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

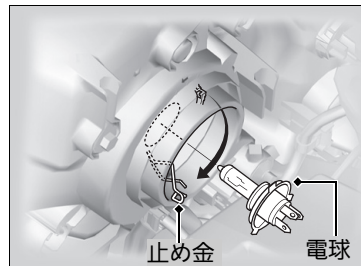
冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ / ロービームヘッドライト N BOX + ハロゲンヘッドライト装備車	: 12V—60/55W
ハイ / ロービームヘッドライト N BOX + ディスチャージヘッドライト装備車	: 12V—35W
ロービームヘッドライト N BOX + Custom	: 12V—35W
ハイビームヘッドライト N BOX + Custom	: 12V—60W

■ハイ／ロービームヘッドライト N BOX + ハロゲンヘッドライト装備車

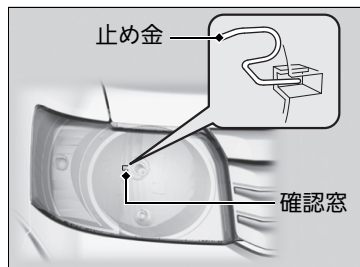
1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。

3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
4. 新しい電球を取り付ける。

≫ヘッドライト電球

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などによりレンズ内面が一時的に曇ることがありますが、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いていたり、水がたまっていたりしている場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

≫ハイ／ロービームヘッドライト

アドバイス
ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
   ▶止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
6. カプラーを取り付ける。

■ハイ／ロービームヘッドライト N BOX + ディスチャージヘッドライト装備車

電球の点検や交換は必ず Honda 販売店に依頼してください。

■ロービームヘッドライト N BOX + Custom

電球の点検や交換は必ず Honda 販売店に依頼してください。

≫ハイ／ロービームヘッドライト

⚠注意

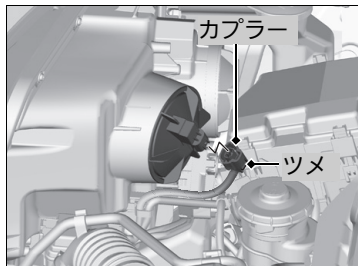
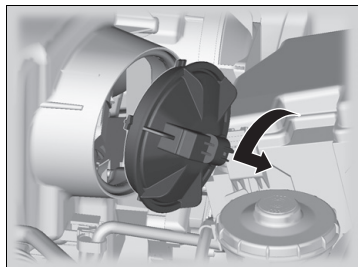
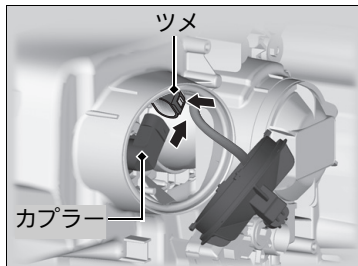
ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しています。
不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

≫ロービームヘッドライト

⚠注意

ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しています。
不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

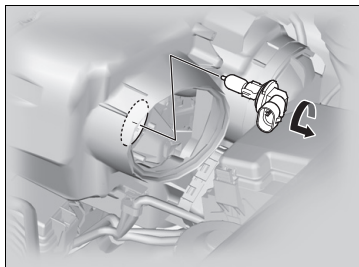
次ページに続く

■ハイビームヘッドライト N BOX + Custom

1. カプラーを外す。
▶カプラーはツメを押しながら外します。

2. カバーを左に回して外す。

3. カプラーを外す。
▶カプラーはツメを押しながら外します。

»ハイビームヘッドライト

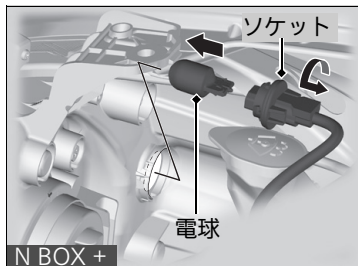
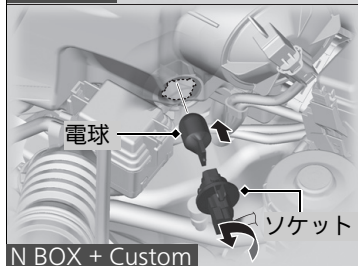
アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

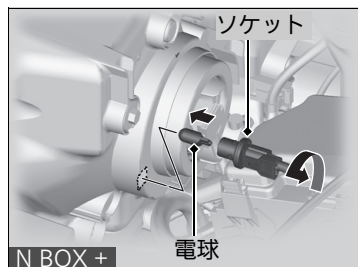
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

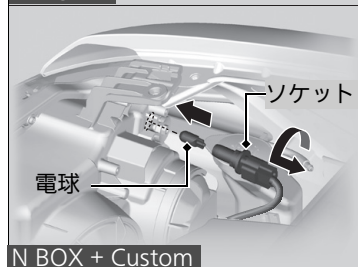
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

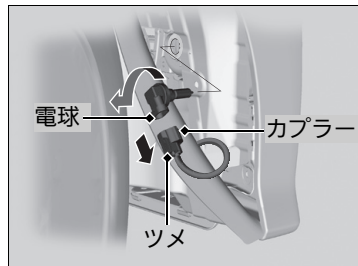
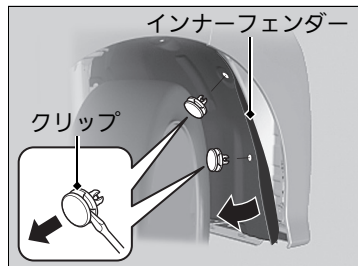
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W（橙色）

1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V−5W

1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

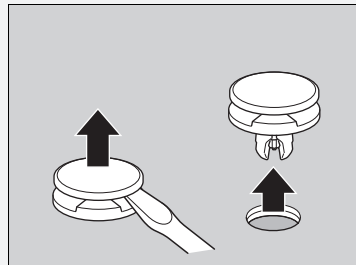
2. 新しい電球を差し込む。

フォグライト電球✤

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

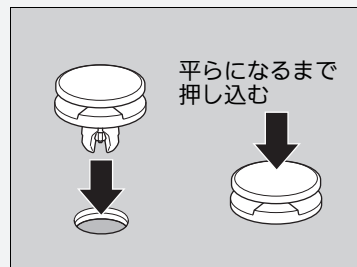
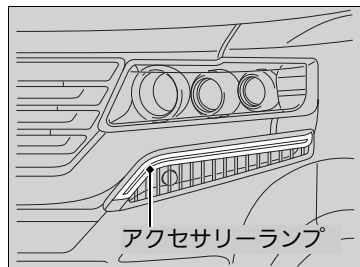
フォグライト：12V−35W

1. 交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切る。
2. クリップを外し、インナーフェンダーをめくる。

3. カプラーを外す。
   ▶カプラーはツメを押しながら外します。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を右に回して固定する。
6. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

≫フォグライト電球✤

クリップを外すときは、クリップの図の位置にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。

クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アクセサリーランプ電球✤

アクセサリーランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

≫フォグライト電球✤

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

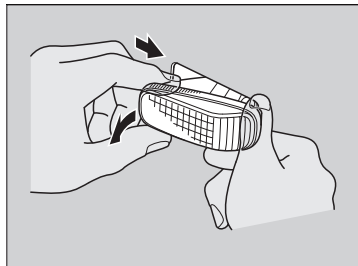
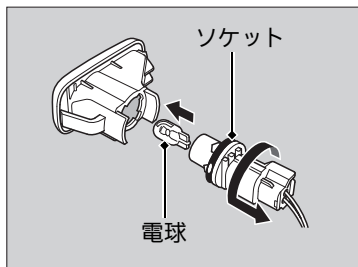
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

ドアミラーウィンカー装備車

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

ドアミラーウィンカー非装備車

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V－5W（橙色）

1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。

2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

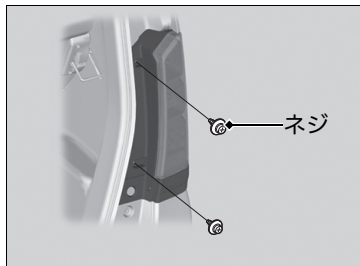
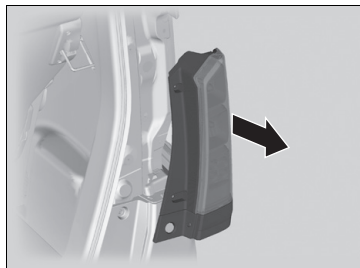
3. 新しい電球を差し込む。

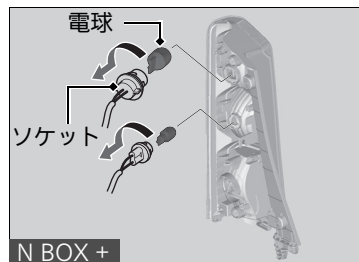
制動灯 / 尾灯

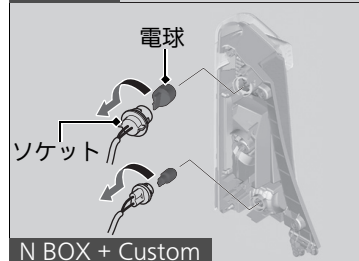
制動灯 / 尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

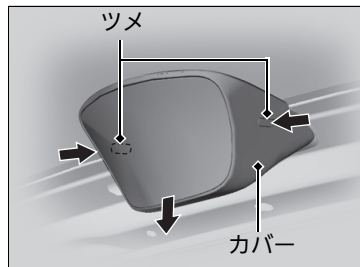
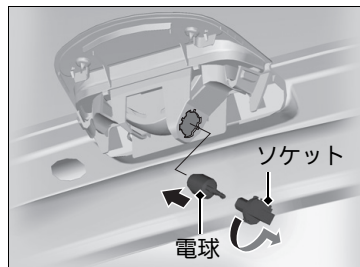
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	：12V－21W（橙色）
後退灯	：12V－16W

1. ネジを外す。

2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。

次ページに続く

3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

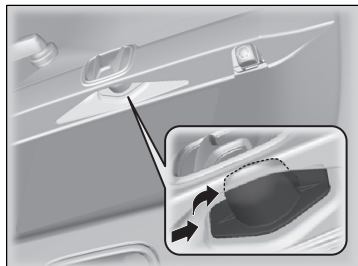
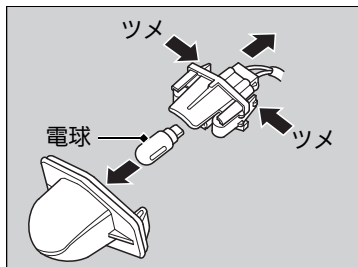
4. 新しい電球を差し込む。

ハイマウントストップランプ電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイマウントストップランプ：12V─21W

1. カバーのツメを押しながら、カバーを取り外す。

2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

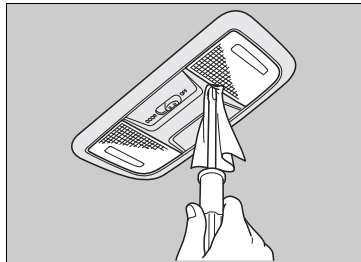
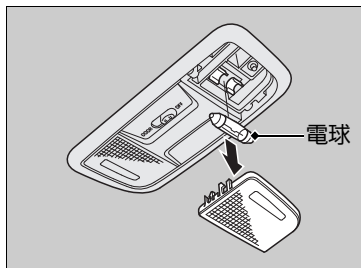
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V－5W

1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。

2. ツメを押してカバーを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

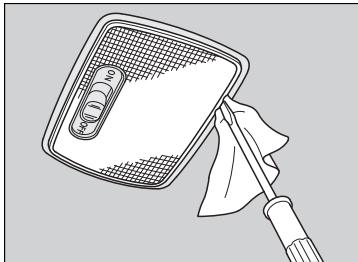
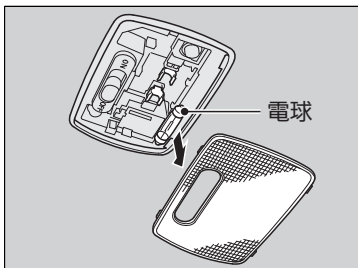
■室内灯 / マップランプ電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯 / マップランプ:12V―8W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

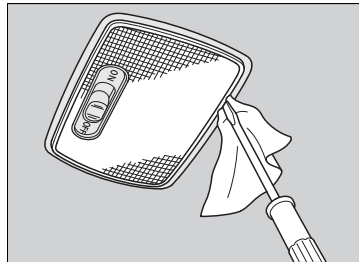
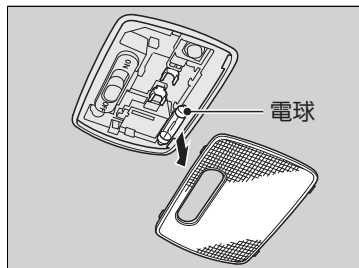
■カーゴスペース照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯:12V―8W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■テールゲートランプ電球

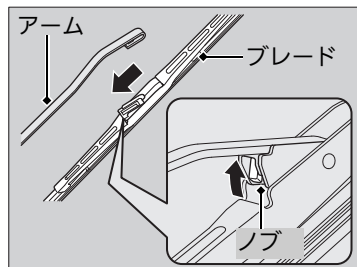
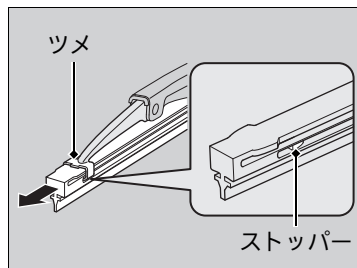
下記の電球をご使用ください。

テールゲートランプ:12V―8W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検と整備

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

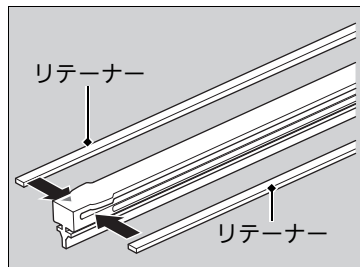
フロントワイパーブレードラバーの交換

1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

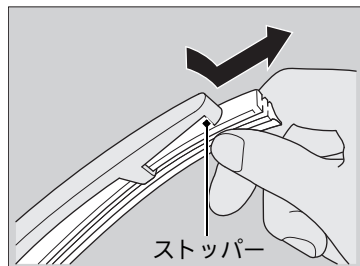
»フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

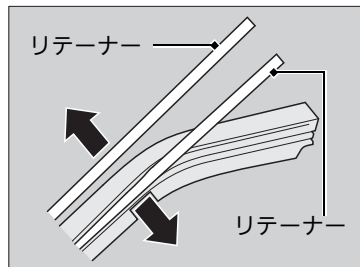
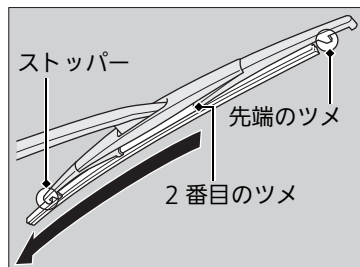
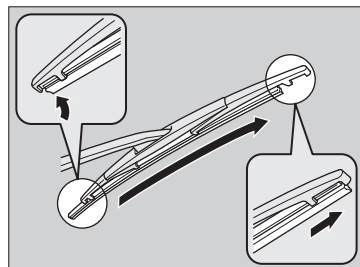
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
5. ラバーをブレードの端から差し込む。
   ▶正しく固定されているか確認してください。その後、ブレードをワイパーアームに取り付けます。

リヤワイパーブレードラバーの交換

1. ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

≫フロントワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

次ページに続く

2. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

3. ラバーをブレードの2番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。

4. ブレードの先端のツメにラバーを通す。
5. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶状況に応じて、タイヤを交換してください。

≫タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

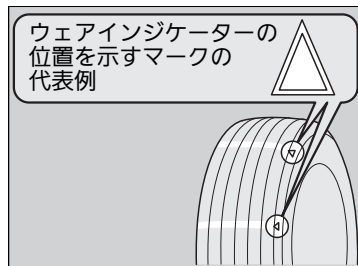
■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

資料 P.241,244,245,248

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。
接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

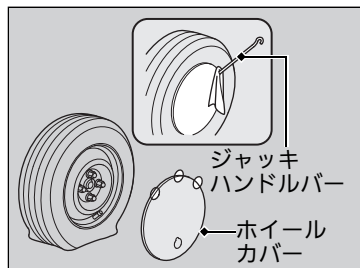
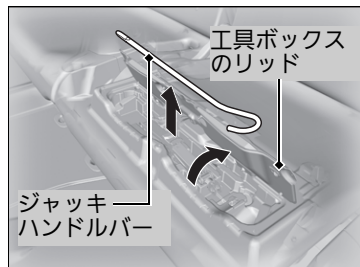
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、ABS、VSA、4WD✤などが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ホイールカバー✤の脱着方法

ホイールカバー装備車

1. 工具ボックスのリッドを開けて、ジャッキハンドルバーを取り出す。

2. ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。
▶ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。
▶場所を変えて 2、3 カ所繰り返すと楽に外れます。

»ホイールカバー✤の脱着方法

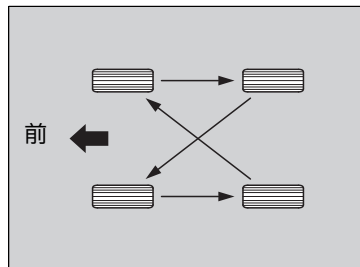
⚠注意

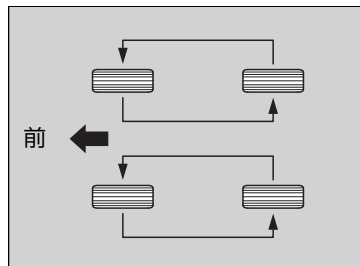
ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

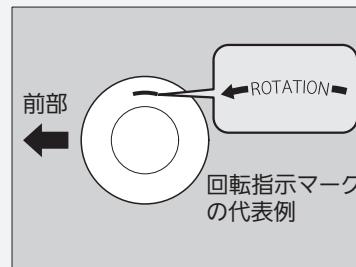
タイヤのローテーション

5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合

左図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

左図のように、タイヤをローテーションさせます。

≫タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
下図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。

締め付けトルク
108 N・m（11 kgf・m）

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

■スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

■タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

»冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは、2WD 車、4WD 車ともに前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

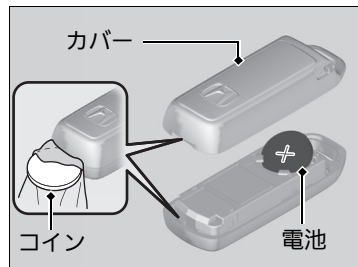
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

ボタン電池 CR1632

1. H マークを上にしてカバーを外す。
   ▶カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
2. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

»取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

»電池交換のしかた

⚠注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

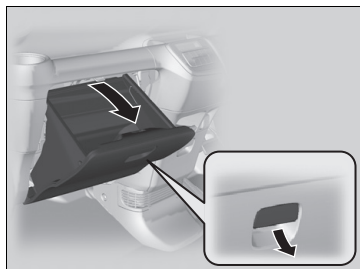
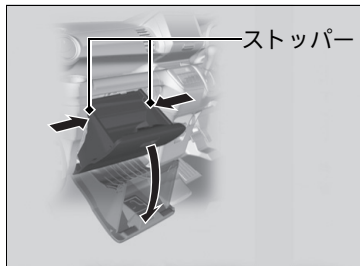
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアクリーンフィルター✤

■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換

1. グローブボックスを開ける。

2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

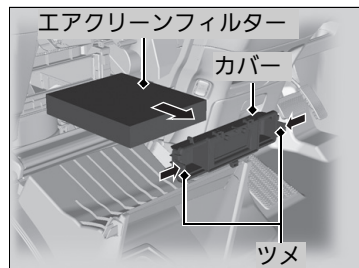
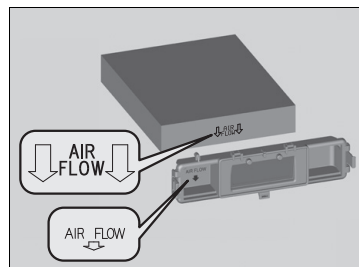
次ページに続く

»エアクリーンフィルター✤

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
4. エアクリーンフィルターを引き出す。

5. 新品と交換する。
   ▶「AIR FLOW」マークの矢印が、同じ方向（下向き）になるように取り付けます。

日常のお手入れ

■走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。
飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

次ページに続く

»洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

»車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■本革* のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液をやわらかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませたやわらかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。
汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- アンテナを取り外す

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

≫車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラス✤について

前席ウィンドー(ドアガラス)にははっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

》ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

■アルミホイール✤のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

》アルミホイール✤のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

✤:タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合はHonda販売店で点検を受けてください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

工具の種類

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

≫工具の種類

工具類は工具ボックス内に収納されています。

≫発炎筒

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすい物のそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

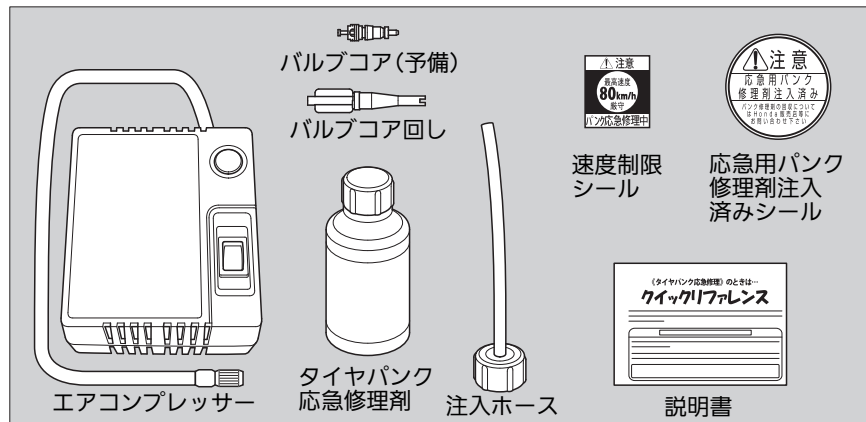
- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、特殊な薬剤でタイヤの内側から損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理をします。

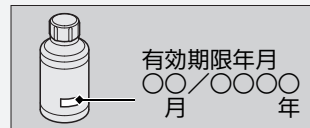
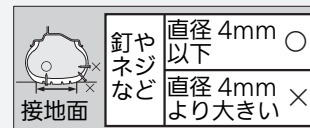
■走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモード※1 を OFF モードにする。

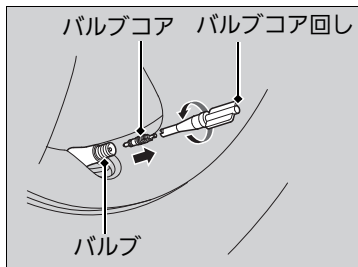
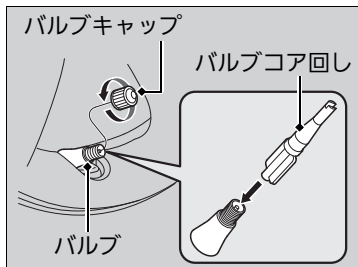
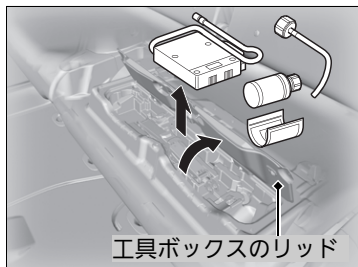
■タイヤ修理の準備

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき

- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■応急修理剤の注入

1. 工具ボックスのリッドを持ち上げて、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

2. バルブからバルブキャップを取り外す。
3. バルブコア回しの突起部分をバルブに押し当てて、タイヤの空気を完全に抜く。

バルブコア　バルブコア回し

バルブ

4. バルブコア回しで、バルブコアを回して外す。
   ▶外したバルブコアは、汚れないようきれいなところに保管します。

次ページに続く

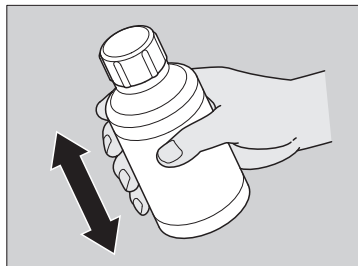
》応急修理剤の注入

⚠注意

タイヤの空気は完全に抜く。

タイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

5. 応急修理剤のボトルをよく振る。

6. 応急修理剤のキャップを外す。
▶内ブタは取り外さないでください。

7. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルに注入ホースを取り付ける。
▶注入ホースをねじ込むと、内ブタが破れます。

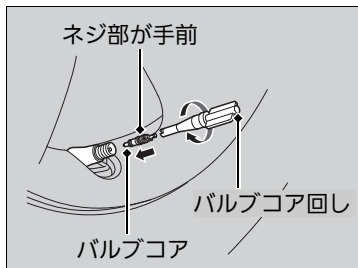
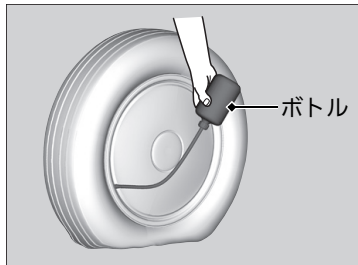
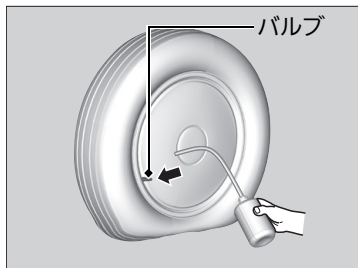
≫応急修理剤の注入

⚠注意

応急修理剤の取り扱いに注意する。

- 誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり皮膚に付いた場合は、水でよく洗い流してください。異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。
- お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

注入ホースを取り付けたあと、応急修理剤のボトルを振らない。

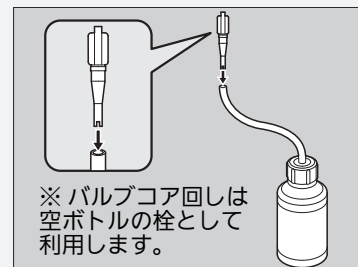
修理剤が注入ホースから飛び出るおそれがあります。

8. 注入ホースをバルブに差し込む。

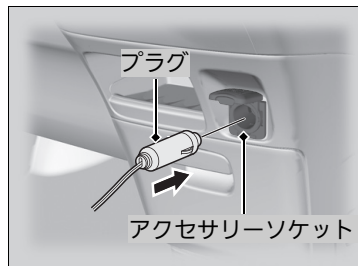
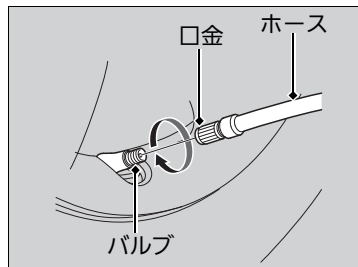
9. 応急修理剤のボトルを逆さまに持ち、ボトル内の修理剤を全てタイヤの中に注入する。
▶全ての修理剤がタイヤの中に入るよう、手でボトルを何回も圧迫してください。

10. 注入後、注入ホースをバルブから引き抜く。

11. バルブコアをバルブに取り付け、バルブコア回しで回し、しっかりねじ込む。

»応急修理剤の注入

注入が終わった空ボトルから修理剤がもれないよう、バルブコア回しで注入ホースに栓をしてください。

注入後の空ボトルは、タイヤ修理時に使用済み応急修理剤の回収に使用します。
捨てずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。

次ページに続く

エアの注入

1. エアコンプレッサーを準備する。
2. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。

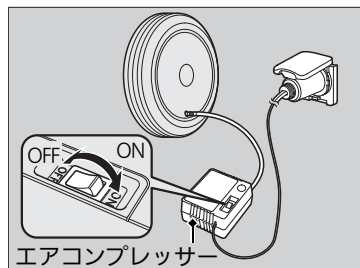
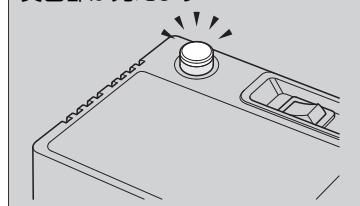
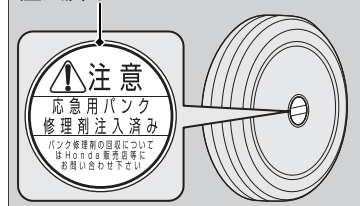
3. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
4. パワーモード ※1 をアクセサリーモードにする。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

≫エアの注入

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

5. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、空気を入れる。

6. エアコンプレッサーのキャップの飛び出しを確認する。
   ▶空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
   ➡ **資料** P.241, 244, 245, 248
   ▶キャップの黄色部が見えていることを確認します。
7. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
8. タイヤパンク応急修理キットを格納する。

9. 修理が完了したタイヤに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼る。
   ▶タイヤのホイールの平らな部分に貼ってください。

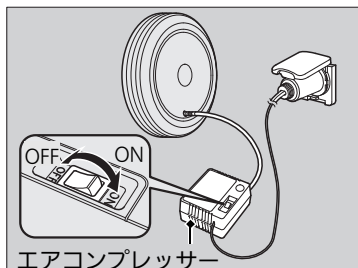
次ページに続く

≫エアの注入

10 分以内にキャップが飛び出さない場合は、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

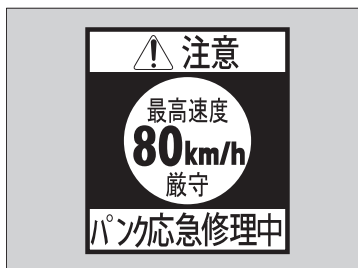
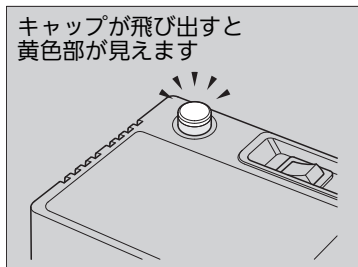
■点検走行

応急修理剤および空気の注入後も、しばらくの間はパンク穴から空気が漏れています。法定速度を守って注意深く運転しながら空気圧を点検し、応急修理を完了させます。
なお、応急修理は特殊な薬剤でタイヤの内側から損傷を一時的に補修したものです。応急修理完了後も慎重に運転し、できるだけ早く Honda 販売店または専門修理工場で、タイヤの修理、交換を行ってください。

1. 点検走行を開始する。
▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
2. 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。
3. 再度エアコンプレッサーを接続する。

≫点検走行

⚠注意

走行中異常を感じたら、ただちに運転を中止する。
応急修理剤での補修が不完全な場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。運転をやめ、Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

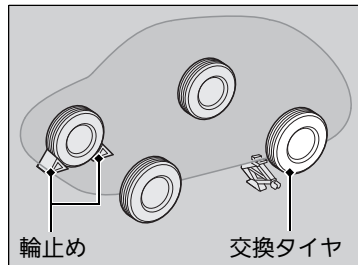
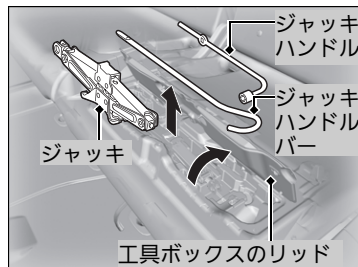
走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

4. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、キャップの飛び出しを確認する。
   ▶空気の注入が終了すると、キャップが飛び出し、「ピー」と鳴ります。
   ▶1分以内にキャップが飛び出し、キャップの黄色部が現れれば、応急修理は完了です。
   ▶1分以内にキャップが飛び出ない場合は、運転を中止してHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。
5. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にして、格納する。
6. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。

≫点検走行

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

万一の場合には

ジャッキのかけかた

1. パーキングブレーキをかける。

2. 工具ボックスのリッドを持ち上げて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

輪止め
交換タイヤ

3. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。

4. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

»ジャッキのかけかた

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

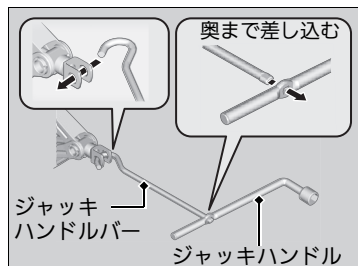
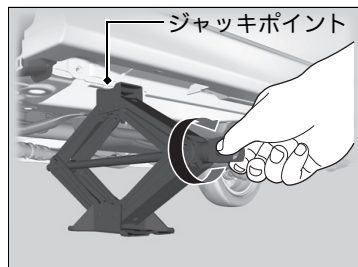
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

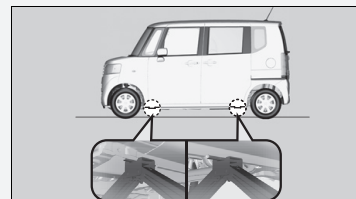
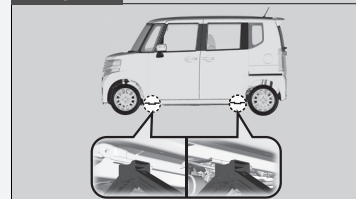
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下に物を入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

5. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
   ▶ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

6. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

»ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。

ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

≫エンジンの状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

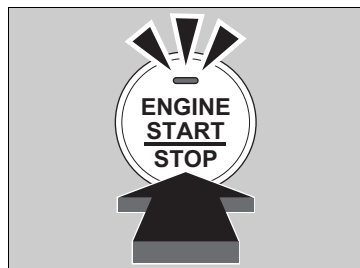
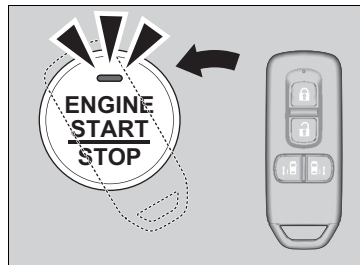
ジャンプスタートの方法 P.223

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	ENGINE START/STOP スイッチ装備車 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 **ENGINE START/STOP スイッチ*** P.83 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは **Honda スマートキーの電池が切れたとき*** P.221 共通 **室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 **ヒューズの点検と交換** P.236
スターターは正常に回るが … ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 **エンジンの始動** P.135 **イモビライザーシステム表示灯* を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 **イモビライザーシステム*** P.79 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 **燃料計** P.54 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 **ヒューズの点検と交換** P.236

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda スマートキーの電池が切れたとき✤

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。

1. ENGINE START/STOP を押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約30秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。

3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、ENGINE START/STOP を押す。
   ▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

緊急時のエンジン停止方法✤

ENGINE START/STOP によるエンジンの停止ができなくなった場合は、以下のいずれかを行ってください。

- ENGINE START/STOP を 3 秒間押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このとき、ハンドルロックはされていません。
セレクトレバーを P に入れてから、パワーモードをOFFモードにしてください。

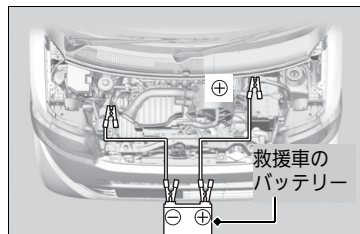
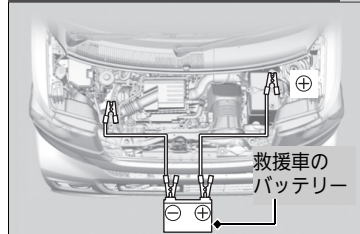
緊急時のエンジン停止方法✤

緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

アイドリングストップシステム装備車

アイドリングストップシステム非装備車

1. 自車と救援車の電源を OFF にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

次ページに続く

»ジャンプスタートの方法

⚠警告

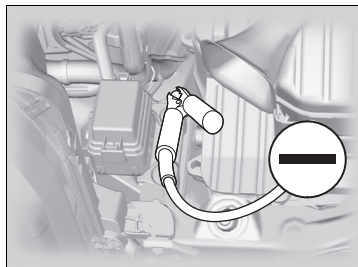
ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのアース端子に接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのアース端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

≫エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

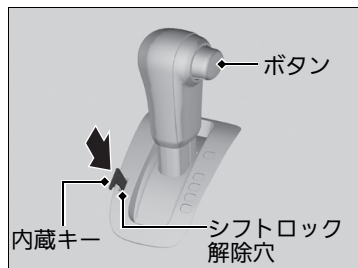
バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、 P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する

1. パーキングブレーキをかける。

2. パワーモード※1 を OFF モードにする。

3. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
▶エンジンスイッチ装備車はキーを差し込みます。

4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。
▶ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

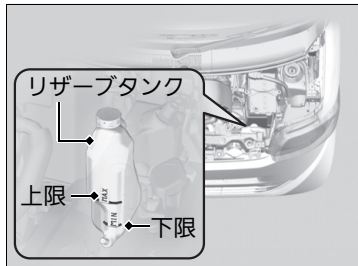
オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 高水温警告灯が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。
蒸気が出ている場合：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること

1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。
▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。
警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

»オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス
高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した

■点灯の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶**消灯した：**運転を再開してください。
▶**10 秒以内に消灯しない：**エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した

■点灯の理由
バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

≫油圧警告灯が点灯した

アドバイス
油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

≫充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する
- ブレーキフルード量を確認する

≫ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。
高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS 警告灯が点灯した

■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

»EPS 警告灯が点灯した

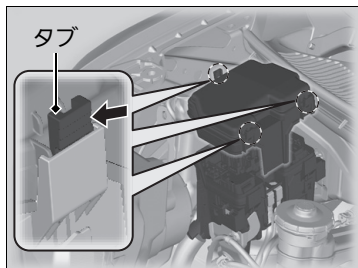
アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけて保持するなどしてシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモード※1 を OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、2つ(アイドリングストップシステム装備車は3つ)のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

エンジンルーム内の運転席側に付いているブレーキフルードリザーブタンクの隣にあります。タブを押して開けてください。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

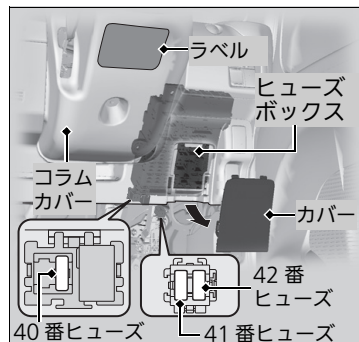
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に（　）がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示		装備	容量
1		バッテリー	70A
2	RR L	助手席側パワースライドドア	(30A)※1
	RR R	運転席側パワースライドドア	(30A)※2
		―	(40A)※3
		―	(40A)※3
3		EPS	40A
		VSA モーター	40A
4		F/B MAIN	60A
		IG MAIN	50A
5		左側ヘッドライトハイビーム	10A※4, ※5
6		右側ヘッドライトハイビーム	10A※4, ※5
7		左側ヘッドライトロービーム	10A※4 15A※5
8		右側ヘッドライトロービーム	10A※4 15A※5
9		スターター	30A
10		ホーン・制動灯	10A
11		ABS/VSA	20A
12		非常点滅表示灯	10A
13		フォグライト	(20A)※6
	RR L	助手席側パワースライドドア	(30A)※1
14		バックアップ	10A
15		―	(20A)
	―	―	―
16		ヘッドライトロービーム	20A※4 30A※5
		右側ヘッドライトロービーム	15A※7
17		冷却ファン	30A
18		バッテリーセンサー	7.5A※8
		バックアップメイン	15A※9
19		MG クラッチ	7.5A
20		ウォッシャー	10A
21		ワイパー	20A
22		スモールライト	10A
23		ヘッドライトハイビーム	30A※4, ※5
		左側ヘッドライトロービーム	15A※7
24	RR L	助手席側パワースライドドア	(30A)※1
		ヘッドライトハイビーム	7.5A※7
25		リヤアクセサリーソケット	20A

※1 ：助手席側パワースライドドア装備車
※2 ：運転席側パワースライドドア装備車
※3 ：パワースライドドア非装備車
※4 ：N BOX＋ハロゲンヘッドライト装備車
※5 ：N BOX＋Custom
※6 ：フォグライト装備車
※7 ：N BOX＋ディスチャージヘッドライト装備車
※8 ：アイドリングストップシステム装備車
※9 ：アイドリングストップシステム非装備車

次ページに続く

■室内運転席側のヒューズボックス

ハンドル右側カバーの奥にあります。
カバーを引いて開けてください。

≫室内運転席側のヒューズボックス

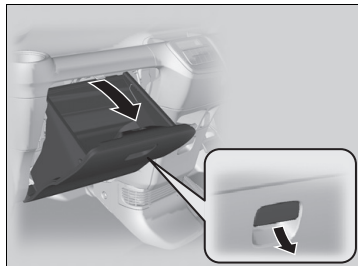
コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

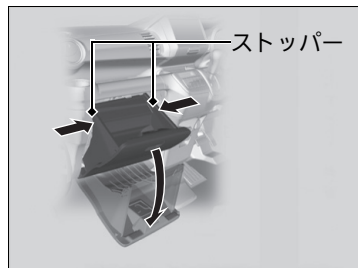
■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

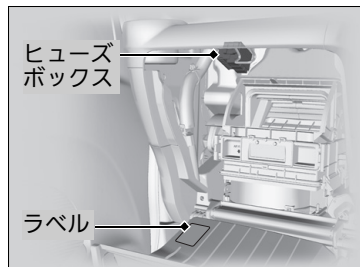
	表示	装備	容量
1		DC/DC1	(30A)※1
2		DC/DC2	(30A)※1
3		ヒーターモーター	30A
4		SRS エアバッグシステム	7.5A
5		リヤワイパー	10A
6		後退灯	7.5A
7		MICU※2 サブヒューズボックス※1	10A
8		SRS エアバッグシステム	10A
9		LAF センサー	10A
10		ヒーテッドドアミラー	10A※3
11		Honda スマートキーシステム	10A
12		室内灯	7.5A
13		フロントワイパー	7.5A
14	—	—	—
15		イグニッション	15A
16		ABS/EPS※2 サブヒューズボックス※1	7.5A
17	RR L	助手席側リヤパワーウィンドー	15A
18	AS	助手席パワーウィンドー	15A
19		フューエルポンプ	15A
20		メーター	7.5A
21		PGM-FI	10A
22	R	運転席側イージードアクローザー	20A※4
23		ドアロック(ロック)	15A
24		ドライブバイワイヤ	10A
25		リヤデフロスター	20A
26		エアコン	7.5A
27		電動ドアミラー	7.5A
28		アクセサリーソケット	20A
29		アクセサリー	7.5A
30	RR R	運転席側リヤパワーウィンドー	15A
31	—	—	—
32		発電機	7.5A
33	L	助手席側イージードアクローザー	20A※4
34		ドアロック(メイン)	30A
35		ドアロック(アンロック)	15A
36	—	—	—
37		ドアロック(アンロック)	15A
38		ドアロック(ロック)	15A
39	DR	運転席パワーウィンドー	20A
40		START DIAG	7.5A
41		—	(7.5A)
42		—	(10A)

※1 ：アイドリングストップシステム装備車
※2 ：アイドリングストップシステム非装備車
※3 ：ヒーテッドドアミラー装備車
※4 ：イージードアクローザー装備車

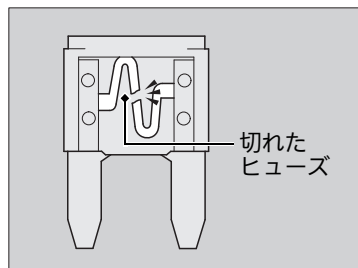
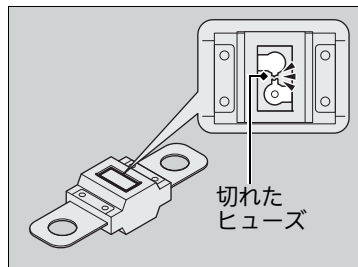
次ページに続く

■室内助手席側のヒューズボックス✤

1. グローブボックスを開ける。

2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
▶エアコンフィルターの上にあります。

≫室内助手席側のヒューズボックス✤

グローブボックスに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	—	—	—
2	(取扱説明書アイコン)	アクセサリー	7.5A
3	(取扱説明書アイコン)	バックアップ	15A
4	(取扱説明書アイコン)	電動オイルポンプ	10A
5	(取扱説明書アイコン)	MICU	7.5A
6	(取扱説明書アイコン)	ABS	7.5A
7	(メーターアイコン)	メーター	7.5A

ヒューズの点検と交換

1. パワーモード※1をOFFモードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーをOFFにする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、新しいものと交換してください。

※1：エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOPスイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

»ヒューズの点検と交換

アドバイス

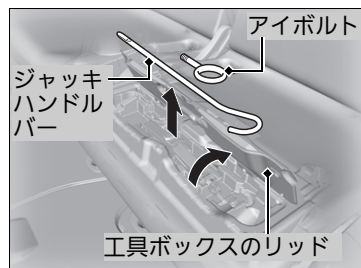
規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
規定容量はP.231～P.235の一覧で確認してください。

非常時のけん引

けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

■やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。

1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
▶異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。

2. 工具ボックスのリッドを持ち上げて、ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。

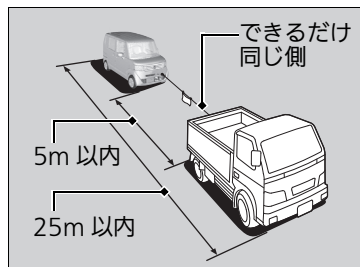
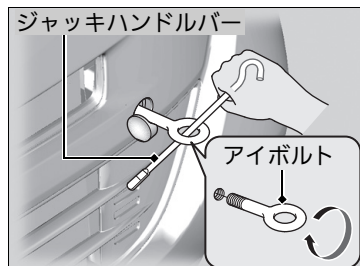
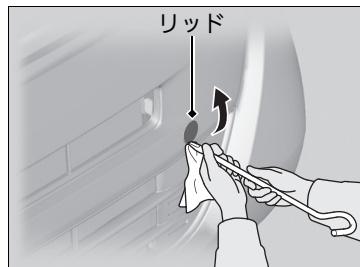
≫非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

次ページに続く

3. ジャッキハンドルバーの先でリッドを開ける。
   ▶バンパーが傷つかないよう、マイナスドライバーの先に布などを巻き付けてください。
4. アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

5. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
6. エンジンをかけてセレクトレバーを D にし、約 5 秒間保持する。
   ▶エンジンがかからないときは、パワーモード ※1 をアクセサリーモードまたは ON モードにします。
7. セレクトレバーを N (ニュートラル)にする。
8. パーキングブレーキを解除する。
9. けん引する。
   ▶けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
   ▶速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引してください。

※1:エンジンスイッチ装備車は、ENGINE START/STOP スイッチの代わりにエンジンスイッチを装備しています。

非常時のけん引

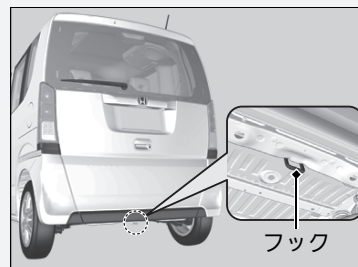
アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

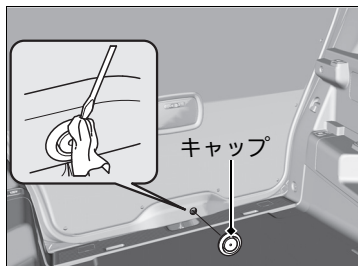
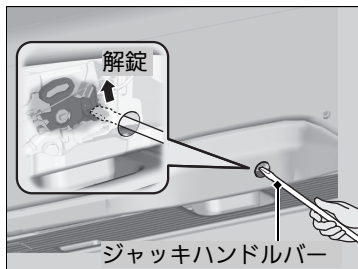
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。
- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- CVT車は、トランスミッションが破損するおそれがある

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

テールゲートが開かないとき

■開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。

1. テールゲートのキャップに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶キャップが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. ジャッキハンドルバーでレバーを上に動かし、テールゲートを解錠する。
3. テールゲートを開ける。
   ➡ **テールゲートの開閉** P.71

≫開かないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

■仕様

名称	N BOX +
排気量	658cm³
車体形状	ステーションワゴン
乗車定員	4 名

■調節

ベルトのたわみ量

A：	補機ベルト（発電機）	10.5-11.5mm { 約 98N（10kgf）の力 }
B：	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.5-9.5mm { 約 98N（10kgf）の力 }

点火プラグ	NGK	ILZKR7B8S
	DENSO	SXU22HCR8S
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-7mm
	床板とのすき間	145mm 以上 { 約 196N（20kgf）の力 }
	カーペットとのすき間（参考値）	119mm 以上 { 約 196N（20kgf）の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ	5 ～ 7 ノッチ { 約 294N（30kgf）の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	35 ℓ ※1 30 ℓ ※2

※1 ： 2WD 車
※2 ： 4WD 車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	32AH（5）/M-42R

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 ℓ

■電球

ヘッドライト（ハイ / ロービーム）	12V-35W※3 12V-60/55W※4
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
車幅灯	12V-5W
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W（橙色）
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	12V-21W
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	12V-8W
カーゴスペース照明灯	12V-8W
テールゲートランプ	12V-8W

※3 ： ディスチャージヘッドライト
※4 ： ハロゲンバルブ

■デファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 ℓ（交換時）

■トランスファーフルード 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- II
規定量	0.43 ℓ（交換時）

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HMMF	2.3 ℓ（交換時）

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA NEXT※5 ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 級 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	2.4 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.6 ℓ

※5 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.89 ℓ（交換時：リザーブタンク 0.315 ℓ含む）

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪	220（2.2）
	後輪	220（2.2）
リムサイズ	14×4 1/2J	

仕様：N BOX ＋

■最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物）

2WD車：	1290kg
4WD車：	1334kg

■最大積載量

2WD車：	150kg（2名乗車時）*
4WD車：	145kg（2名乗車時）*

＊目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

■仕様

名称	N BOX + Custom
排気量	658cm^3
車体形状	ステーションワゴン
乗車定員	4 名

■調節

ベルトのたわみ量

A：	補機ベルト（発電機）	10.5-11.5mm { 約 98N（10kgf）の力 }
B：	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.5-9.5mm { 約 98N（10kgf）の力 }

点火プラグ	NGK	ILZKR7B8S
	DENSO	SXU22HCR8S
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-7mm
	床板とのすき間	145mm 以上 { 約 196N（20kgf）の力 }
	カーペットとのすき間（参考値）	119mm 以上 { 約 196N（20kgf）の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ	5～7 ノッチ { 約 294N（30kgf）の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	35 ℓ ※1 30 ℓ ※2

※1 ： 2WD 車
※2 ： 4WD 車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	32AH（5）/M-42R

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 ℓ

■電球

ヘッドライト（ロービーム）	12V-35W※3
ヘッドライト（ハイビーム）	12V-60W※4
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
車幅灯	12V-5W
フォグライト	12V-35W
アクセサリーライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	12V-21W
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	12V-8W
カーゴスペース照明灯	12V-8W
テールゲートランプ	12V-8W

※3 ： ディスチャージヘッドライト
※4 ： ハロゲンバルブ

■デファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 ℓ（交換時）

■トランスファーフルード 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- II
規定量	0.43 ℓ（交換時）

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HMMF	2.3 ℓ（交換時）

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA NEXT※5 ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 級 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	2.4 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.6 ℓ

※5 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.89 ℓ （交換時：リザーブタンク 0.315 ℓ含む）

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa (kgf/cm^2)	前輪	220 (2.2)
	後輪	220 (2.2)
リムサイズ	14×4 1/2J	

■最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物）

2WD 車：	1290kg
4WD 車：	1334kg

■最大積載量

2WD 車：	150kg (2 名乗車時) *
4WD 車：	145kg (2 名乗車時) *

＊目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

仕様：N BOX +(ターボ)

■仕様

名称	N BOX +
排気量	658cm^3
車体形状	ステーションワゴン
乗車定員	4名

■調節

ベルトのたわみ量		
Ⓐ：	補機ベルト（発電機）	10.5-11.5mm { 約98N(10kgf)の力 }
Ⓑ：	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.5-9.5mm { 約98N(10kgf)の力 }
点火プラグ	NGK	ILZKR7B8S
	DENSO	SXU22HCR8S
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-7mm
	床板とのすき間	145mm 以上 { 約196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	119mm 以上 { 約196N(20kgf)の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ	5〜7ノッチ { 約294N(30kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
燃料タンク容量	35 ℓ ※1 30 ℓ ※2

※1 ： 2WD車
※2 ： 4WD車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	27AH(5)/34B17L

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 ℓ

■電球

ヘッドライト(ハイ / ロービーム)	12V-35W※3 12V-60/55W※4
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
車幅灯	12V-5W
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W(橙色)
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	12V-21W
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	12V-8W
カーゴスペース照明灯	12V-8W
テールゲートランプ	12V-8W

※3 ： ディスチャージヘッドライト
※4 ： ハロゲンバルブ

■デファレンシャルオイル 4WD車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 ℓ (交換時)

■トランスファーフルード 4WD車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- II
規定量	0.43 ℓ (交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HMMF	2.3 ℓ (交換時)

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA LEO※5	API SN 級 SAE 0W-20※6
	ULTRA LTD	API SN 級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.4 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.6 ℓ

※5 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。
※6 ： 0W-20 で使用できるのは ULTRA LEO のみです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.0 ℓ (交換時：リザーブタンク 0.315 ℓ含む)

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa(kgf/cm^2)	前輪	220(2.2)
	後輪	220(2.2)
リムサイズ	14×4 1/2J	

仕様：N BOX +(ターボ)

■最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物）

2WD車：	1290kg
4WD車：	1334kg

■最大積載量

2WD車：	150kg(2名乗車時)*
4WD車：	145kg(2名乗車時)*

＊目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

仕様：N BOX + Custom（ターボ）

■仕様

名称	N BOX＋Custom
排気量	658cm^3
車体形状	ステーションワゴン
乗車定員	4 名

■調節

ベルトのたわみ量			
	A：	補機ベルト（発電機）	10.5-11.5mm ｛約 98N（10kgf）の力｝
	B：	補機ベルト（エアコンディショナー）	8.5-9.5mm ｛約 98N（10kgf）の力｝
点火プラグ	NGK	ILZKR7B8S	
	DENSO	SXU22HCR8S	
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm	

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-7mm
	床板とのすき間	145mm 以上 ｛約 196N（20kgf）の力｝
	カーペットとのすき間（参考値）	119mm 以上 ｛約 196N（20kgf）の力｝
パーキングブレーキ	踏みしろ	5～7 ノッチ ｛約 294N（30kgf）の力｝

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	35 ℓ ※1 30 ℓ ※2

※1 ： 2WD 車
※2 ： 4WD 車

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	28AH（5）/38B19L

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 ℓ

■電球

ヘッドライト（ロービーム）	12V-35W※3
ヘッドライト（ハイビーム）	12V-60W※4
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
車幅灯	12V-5W
フォグライト	12V-35W
アクセサリーライト	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯 / 尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	12V-21W
番号灯	12V-5W
室内灯 / マップランプ	12V-8W
カーゴスペース照明灯	12V-8W
テールゲートランプ	12V-8W

※3 ： ディスチャージヘッドライト
※4 ： ハロゲンバルブ

■デファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 ℓ（交換時）

■トランスファーフルード 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- II
規定量	0.43 ℓ（交換時）

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HMMF	2.3 ℓ（交換時）

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA LEO※5	API SN 級 SAE 0W-20※6
	ULTRA LTD	API SN 級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.4 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.6 ℓ

※5 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。
※6 ： 0W-20 で使用できるのは ULTRA LEO のみです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.0 ℓ（交換時：リザーブタンク 0.315 ℓ含む）

仕様：N BOX + Custom（ターボ）

■タイヤ

サイズ	155/65R14 75S	
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪	220（2.2）
	後輪	220（2.2）
リムサイズ	14×4 1/2J	

■最大積載時の車輛重量（車輛重量＋乗車定員＋荷物）

2WD 車：	1290kg
4WD 車：	1334kg

■最大積載量

2WD 車：	150kg（2 名乗車時）＊
4WD 車：	145kg（2 名乗車時）＊

＊目安ですので、最大積載時の車輛重量を超えないでください。

数字

A

C

E

H

I

M

P

R

S

V

W

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

サ

シ

ス

セ

索引

ナ

ネ

ハ

ヒ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名